

Global Press Annual Clippings 2015

インターネットがもたらした新しい情報環境は、メディアの形態を一変させました。

世界各地で日々起こる事件が、30分後には映像と共に全世界に伝わる現在、“ニュースを伝える”という作業は、速報性という面ではすでに極限に近づいています。一方で、大手メディアや通信社が送り続ける膨大なリアルタイム情報とは別に、現地に根を張るジャーナリストの視点で事象を読み解くことも、今までになく重要になっています。

Global Press は、海外に在住し、その地の息吹を直接感じながら活動するジャーナリストの集団です。新聞やテレビニュースのフレームから漏れ落ちた“Behind the Scene(現場の裏)”の真実を日本の読者にお伝えします。

Table of Contents (順不同)

- 02 有馬 めぐむ 緊縮の悪循環に苦しむギリシャ国民
- 03 岩澤 里美 欧州の《劣化しない》中年女性 何歳でも自分の道は発見できる
- 04 板坂 真季 ミャンマーで楽しむヘルシー納豆料理！『納豆の大三角形』にも注目
- 05 岩本 順子 世界に類を見ないワイン・プロモーション『Generation Riesling』
- 06 川崎 陽子 万能植物ヘンプが地球を救う？！
- 07 片瀬 ケイ 米国の街角に増える救急医療室 便利だが高額な施設料
- 08 田口 理穂 自治体主導で包括的に気候保護。北ドイツ・ハノーファーの場合
- 09 田中 聖香 戦後70年、「忘れない決意」が開く未来
- 10 寺町 幸枝 ハリウッド女優がソーシャルビジネスに賛同！
- 11 栗田 路子 悲鳴を挙げる欧州社会
- 12 鎌田 聡江 いままでと同じ生活をする、それがテロへの答え【パリ同時テロ点景】
- 13 クロディア 真理 グルメ料理の材料は食品廃棄物
- 14 安部 かすみ 全米で同性婚が合憲に 今後も続く「真の平等」への戦い
- 15 斎藤 淳子 中国の「トンデモ」をチャンスに
- 16 伊勢本 ゆかり 「尽くされて当然」都会の強き女性たち
- 17 岩下 慶一 B.B. キングの死と、消えゆくブルーズ
- 18 中 東生 宗教の違いを超えた音楽の可能性
- 19 今井 佐緒里 なぜ英国ではEU離脱が問題になっているのか
- 20 シュピッツナーゲル 典子 ドイツ最底賃金法導入で得をした人、損をした人

Global Press

サンプルのため転載厳禁

東京都特定非営利活動法人 在外ジャーナリスト協会 (Global Press) 発行

Global Press (グローバルプレス 日本語正式名称：在外ジャーナリスト協会)
〒153-0041 東京都目黒区駒場 1-26-10-304 株式会社オルタナ 編集部内

Tel: 03-6407-0266

編集：寺町 幸枝 (Global Press) PDF版の転送行為は固くお断りいたします。
お問い合わせは Global Press 事務局 (info@globalpress.or.jp) までご連絡下さい。



緊縮の悪循環に苦しむギリシャ国民

有馬 めぐむ (在ギリシャ)

ギリシャでは2015年1月の議会選挙で政権交代が実現、急進左派連合（SYRIZA）を中心とする左派政権が誕生した。以来、ギリシャ政府は緊縮の緩和や債務再編を求め、約5か月半の間、欧州連合（EU）や国際通貨基金（IMF）などと交渉を重ねていた。

協議の行詰まりにより、6月末から約3週間の銀行休業に追い込まれ、ユーロ離脱も取り沙汰された。しかしそんな状況下で行われた7月5日の国民投票では、世界中の大手メディアの予想に反し、緊縮策に反対のNO派が6割を占める結果となった。5年間に及ぶ緊縮政策で苦しみ、失うものは何もない貧困層や、失業率が6割近い若年層などが反対票を投じたのだ。

その後の交渉で世論に後押しされたツィプラス首相だったが、7月13日、ユーロ圏19か国の緊急首脳会議で合意した内容に民意は反映されなかった。食品の付加価値税の大幅な引き上げ、年金削減などが課せられ、それらの即時、法制化を求められるなど、厳しい内容となった。

<誤解が蔓延しているギリシャ報道>

2010年にギリシャ危機が本格化して以来、その要因は「ギリシャ人が働かない」などという事実と異なる報道も多かった。客観的なデータで確認してもそのような事実はない。経済協力開発機構（OECD）のデータで、加盟国の雇用者1人当たりの年間労働時間数をみると、ギリシャは2109時間（2010年）で、2000年から2010年まで一貫して、ドイツ（2010年1419時間）や日本（2010年1733時間）よりも多い。1人当たりの労働生産性もドイツとは僅差で、スペイン、日本を上回る年もある。

またよく問題視されるギリシャの年金だが、これもOECDのデータで、対GDP比においてイタリアやフランスより年金受給額は低い。2010年からの4年間で、年金受給額は平均で3割、最大で5割カットされた。現在の平均年金受給額は800ユーロ前後で、年金生活者は貧困層として生活苦を抱えている人が多い。

2013年には定年退職年齢が平均で2年引き上げられたが、早くから受給される人が多いのは事実だ。しかしこれも財政危機で公務員の早期退職者を募ったのが大きな要因になっている。年金システムを支える若年層の失業率が6割近くと、緊縮策による雇用情勢の悪化が長期化している影響も大きい。

公務員問題もよく取り沙汰される。確かに市役所など一部

の公務員の働き方は、日本と比べたらスローで、必要な書類など自分の業務を把握していない職員もいる。またそのような勤務態度の公務員は縁故採用が多いなど、是正されるべき点は多くある。ただ周囲には、給与4割カットの憂き目に遭いつつも、朝早くから夜遅くまで残業代なしで忙しく働いている公務員も多い。

友人の小学校教師、エレナさん（36）は、午後2時ごろに仕事が終業、帰宅する。しかし朝は6時半に家を出て7時から始業、昼休みはないので、普通に7時間労働だ。月給は700ユーロと高いとは言えない。「真面目に働いて税金も納めてきました。国の巨額債務は寝耳に水だった。今までの政府には莫大な使途不明金が存在します。財政危機発覚まで、政治家は私腹を肥やし、そのツケは全て庶民にきています」

また数年に渡る緊縮策で両親がともに仕事を失い、育ち盛りに十分な食事がとれない子供が増えているという。「朝から空腹で集中力や体力がない子供たちに勉強を教える状況は本当につらい。貧困層の人々が住む地区では栄養失調気味の子供が増えています」。

今年の2月、公立の保育所で2日間、自宅で何も食べていない子供が発見されたことがニュースとなった。貧困層の子供たちを助けようと教会や民間の団体も動いている。慈善団体のスタヴロス・ニアルコス財団が、アテネとその周辺で、特に貧困層の多い公立小学校64校を選出、食事を与えている。同慈善団体の調査によれば、その64校に通う生徒の、25%の家庭が毎日の食事に困っている、60%が明日以降の生活に不安がある、17%が家庭で誰一人、収入のある人がいないという切迫した状況であることがわかった。

<問題は緊縮の悪循環と軍事費>

2010年より開始されたEUなどによる金融支援だが、この救済金の大半はギリシャ国民のためには使われていない。ギリシャ国債を保有するドイツやフランスの銀行に流れている。つまり外国の銀行の救済だ。一方でその救済金と引き換えの緊縮策により、ギリシャ国民は職を失い、増税や歳出カットに苦しみ、中間層から貧困層に転落した人も多い。

ギリシャ問題において、年金や公務員問題よりずっと問題視されるべきは、小国にしては膨大な軍事費だ。ギリシャは長年に渡り、ドイツやフランスから多額の武器を購入している。2010年の金融支援の開始時に、世界第3位の武器輸出国のドイツより、「ギリシャの年金や社会保障はいくらカットしてでも、ドイツからの武器の購入は続ける」という条件

が提示されていた。

第二次世界大戦下、ギリシャ各地にナチス・ドイツ軍に虐殺された村がある。戦後、ドイツが東西に分断されたため、国家間賠償は延期、後に放棄された。欧州においてギリシャを含む多くの国はドイツの債務減免にも応じた過去がある。そのような過去を無視しての、EUにおけるドイツの“独裁”や、効果的とは言えない過度な緊縮策をギリシャに押し付けることに、仏経済学者のトマ・ピケティ氏や米コロンビア大学経済学教授のジェフリー・サックス氏なども批判声明を公式に発表した。

いま、ギリシャ議会では多岐に渡る改革案が議決されているが、与党のSYRIZAから多くの造反者が出ている。ツィプラス首相は時局に鑑み、8月20日に辞任。9月20日の総選挙が予定されている。与党議員を入れ替え、政治基盤を立て直すつもりだと見られている。

改革案が全て可決して法制化されても、緊縮で疲弊したギリシャ社会に実効性があるかどうかは疑わしい。何度も債務危機が繰り返されるだけという国内外の識者の意見は多い。ギリシャ国民、特に社会的弱者へのしわ寄せはいつまで続くのであろうか。

「婦人通信」(2015年8月20日記)

【ありま・めぐむ】ギリシャ・アテネ在住フリージャーナリスト。日本の出版社で記者職を経験後、2000年よりフリーランス。2005年から国際会議コーディネートの仕事でギリシャに数回滞在した後、07年よりアテネ在住。ギリシャの財政危機問題、政治経済情勢などを日本のメディアに執筆。ラジオ番組出演も多数。



Global Press Annual Clippings 2015

欧州の《劣化しない》中年女性 何歳でも自分の道は発見できる

岩澤 里美 (在スイス)

私の友人に、在スイス20数年のアラカン(around 還暦)の日本人がいる。彼女はいつも、非常に明るく優しいオーラに包まれている。とても若く見える彼女は、内面も素敵だ。「昔の60歳といまの60歳とでは、たしかに外見は違う。いまの60歳は若く見える人が多いかもしれないけれど、精神的には60歳はやはり60歳よ」

そう語る彼女は、自分らしい道(教育関係→福祉分野でフルタイムで働きながら育児→専業主婦→毎週末、一流ホテルで茶会を開催)を見つけ、人生をしっかりと歩んでいる。

女性もそして男性も、老いを避けることはできない。私も誕生日を迎えれば、ああ、またひとつ年を取ったと毎回思う。気力が衰えたり、肉体的にも少しずつ老化していくのだろうと意識する。

「あの女性は以前は輝いていたのに、いまはすっかり老けた」という指摘は、ヨーロッパでも日本でもよく聞く。でも彼女と交友していると、「いつまでも輝いている」ことは可能だと感じる。彼女のように、自分はこの世界でどう存在していきたいのか、を真剣に考えていればだが。

年末、彼女に会った。彼女の会話はいつものように、私をとて楽しくさせた。彼女のように生き生きとした女性たちは、そう多くはないように思う。「年を重ねても、この人のように輝いていたい」。私は改めて願った――

新年にあたり、自分らしい職業を見つけた輝く女性を2人紹介したい。1年の初めは、やはり希望にあふれるもの。

こんな生き方もある、という例として見ていただきたい。

1人目は、50代のウテ・ホフマン(Ute Hoffmann)さん。南ドイツ出身でスイス在住の舞台女優だ。スイスで催された野外舞台「ハイジ」でロッテンマイヤー嬢を務め、子どもたちから怖がられるほどの迫真の演技を見せたり、男優との夫婦劇では母親の死に本気の涙を流し、夫とときめくような抱擁を交わして喜怒哀楽を細やかに表現したり。大小の公演をスイス国内やドイツで続けている。私は昨秋、ウテさんの公演を見に行った。

ウテさんは3人の子どもを持つ専業主婦だったが、発声が非常にいいと褒められ、ある日、地元のアマチュア劇団から一緒に舞台をやってみないかと誘われた。約15年前のことだ。

ウテさんは、そのときまで舞台に親しんだことはなかった。でも、出身地である南ドイツの方言を話す役をあてがうからと言われ、挑戦した。思いのほか上手いき、続けることに。数年後、プロの演出家と仕事をしたことが大きな転機となり、役者としてのキャリアをゆっくりと積み始めた。

「結婚前は病院の研究室で働いていました。仕事はずっと続けるつもりで、専業主婦になることは全然考えていませんでした。でも結婚を機に家に入ることを決めました。子どもも欲しかったし、理想の生活を送ってとても満足していました。

最初は、役者はまったくの趣味でした。1つの作品に何時間

も準備をすること、観客の期待を一瞬ごとに感じられること、自分が作品の責任の一部を担っていることが楽しくて、業界のプロとの出会いを通して経験を積んで、自分の好きな作品を演じたくまりました。

選んだのは1人芝居で、2人の子が巣立った専業主婦の話でした。家庭のことだけに専念してきた彼女が何をすべきか分からなくなり、それを探そうとする話です。《この世には様々な生き方がある。なぜ、ただ見ているだけなのか。試してみない手はない》という台詞が心に深く響いて、私自身の生き方に重なりました。スポンサー探しも公演会場探しも宣伝も、すべて自分1人でやりました。大成功してスイスとドイツとオーストリアで、合計64回演じました。

この体験で、役者としてやっていけるかもと感じました。俳優養成校を卒業していなかったのに、私は役者ですと言うことに躊躇していましたが、とにかく自分のやりたい作品を、自分のペースで演じ続けてきました」

自分の進むべき道を見つけたことを、ウテさんは実感した。好きなことが見つかり、少額だが自分で収入を得られて、とても幸せだという。

夫が働けなくなるかもしれない、先に亡くなるかもしれない、もしかして離婚するかもしれない。夫婦関係がどうなるかは誰にも分からないことです。妻が経済的に自立する準備をしておくのは、ものすごく大切だと思います。でも経済面は重視しなくてもいいのです。どんな女性でも、報酬が多くなってもいいから定期的に働くとか、子どもや高齢の人たちのためにボランティアするとか、何か、自分が楽しいと感じられることをして社会とつながりを持つべきだと思います」

将来は、もっとたくさん公演したいと言う。チューリヒ市内は芸術分野のネットワークが非常に強く、地方に住む彼女にとってはなかなか公演が難しいそうだが、チャンスがあれば是非と話す。もう1つの夢は、できる限り長く演じ続けること。「もしかしたら80歳になっても演じているかもしれませんね。だって、お婆さんの役がありますから」と笑った。

2人目は、チューリヒに住む調香師のヴェロ・ケアン (Vero Kern) さん。現在70代である。

ヴェロさんは自分の香水ブランド、ヴェロ・パフューモを作り販売している。なんといってもすごいのは、50代半ばで香水の勉強をしようと決め、67歳で自分の香水を売り始めたこと。数年前にこのストーリーに感動し、是非とも日本の媒体で紹介したいとコンタクトを取った。日本向けの取材は初めてということで、喜んでくれた。

ヴェロさんの香水は、かなり値が張る。にもかかわらず、

ヨーロッパ各地に販売網を持ち、新作を発表し続けている。「国外産の香水は参入しにくいのですが、本場のフランスでも売っています。スイスも決して簡単ではないですね。幸い、私の香水をものすごく気に入ってくれる販売パートナーがいろいろな国で見つかりました」

ヴェロさんは自分のしたいことを、人まねではなく自分ができる形で実現してきた。

彼女のキャリアは薬局から始まった。その後、航空会社に20年以上勤務してから、マッサージ師になった。このころ、アロマセラピーの勉強をした。自分で調べたアロマオイルをマッサージ客に試したら大好評だった。自分には調合のセンスがある！意外な才能に気付いたら、香水を作ってみたくなった。

私だけが作れる特別な香水を作りたい。ヴェロさんの思いは、それに尽きた。貯金のすべてを、2年間、月1回パリで香水作りを学ぶことに費やした。勉強を終えて、運良くパリの老舗香水工房で働くチャンスもつかんだ。経験を積んで自信をつけた彼女は、5年かけて、ヴェロ・パフューモの最初の3種類を完成させた。

「この5年間は自分で作ったアロマオイルを売って、なんとか収入を得ていました。そのお金はほとんど、3種類の香水の開発のために使いました。あんなにお金に余裕がなかったのは、人生で初めてでした。でも自分の好きなことができたので毎日幸せでした」

ヴェロさんは昨春、5種類目 ROZY を発売した。続いて昨秋には、チューリヒのスパ Hammam Basar のために作った香水 Eau de Hammam の販売が始まった。いままも少しずつ、着実に前進している。

自分らしい道を見つけた彼女たちは、とても美しい。私は人物記事を書き続けている。

今年も、こんな素敵な女性たちとの出会いをレポートしていきたい。

「YAHOO! JAPAN ニュース」(2015年1月10日掲載)



3人の子を持つ専業主婦から舞台女優になったウテ・ホフマンさん。スイスを中心に活躍 (taff-theaterproduktion Ute Hoffmann 提供)

【いわさわ・さとみ】英国留学を経てスイスへ。「外国で生きるとは」を切り口に人・コトを取材。JAL ファーストクラス機内誌『アゴラ』、環境とCSRを扱うビジネス誌『オルタナ』などに、スイスを中心に、近隣欧州国についても寄稿。「JBpress(日本ビジネスプレス)」では、ユニークな事業を展開する欧州企業レポートや欧州で活躍する日本人のインタビュー記事を精力的に発表。在外ジャーナリスト協会「Global Press」副理事



ミャンマーで楽しむヘルシー納豆料理！『納豆の大三角形』にも注目

板坂 真季 (在ミャンマー)

納豆が日本独自の伝統食品だと思っている人も多いのではないだろうか。しかし納豆に似た食べ物は、お隣の中国や韓国のみならず、アジアの広い地域で食べられている。

1970年代に脚光を浴びた文化論に、照葉樹林文化論がある。日本から東南アジア大陸部、果てはヒマラヤにかけての照葉樹林帯にはよく似た植物を利用する類似の文化圏が存在するというものだ。同論の提唱者の一人である文化人類学者の中尾佐助氏は、日本、ジャワ、ヒマラヤを結ぶ三角形の範囲を「ナットウの大三角形」と名付けたが、ミャンマーはこの中にすっぽりと納まっている。

ミャンマーの納豆は大きく分けて2種類。煎餅状に伸ばして乾燥させた赤茶色の「ペーポツ」と、日本の納豆に近い糸を引く「ペーガピ」だ。ヤンゴンの市場でよくみかけるのは前者で、これを細かく刻んでふりかけとしてご飯にかけたりサラダに混ぜ込んだり、時に炒め物や煮物に調味料として加える。

後者のペーガピはシャン州など、ミャンマーの東部、北部の山岳地帯に多い。草を敷き詰めた竹の籠に茹でた大豆を詰めて、発酵させるが、市場では、そこから直接量り売りしているところをよく見かける。イチジクに似た植物の葉に包んで売っていることもある。

日本の納豆と比べると、発酵の度合いが低いのか、糸はそれほど激しく引かない。しかし香りはまさに納豆そのもの。そのまま食べることはあまりなく、スパイスを加えてソースのように仕上げ、ご飯にかけて食べたり、鶏肉や川魚と一緒に煮込むことも。

シャン州はシャン族やバオ族、インダー族といった少数民族が多くすむエリアだが、同じくカチン族が多いカチン州でも、日本の納豆とよく似た味の納豆を食べるそうだ。

納豆を使った料理は、これまでヤンゴンではあまり観光客の口に入ることはなかったが、ここ数年の少数民族レストランの流行で、けっこう目にするようになってきた。特にシャン料理を扱う店では隠し味に使っていることも多く、煮込み料理のかすかな香りに「もしかして？」と思ひ店員に尋ねると、やはり納豆を使っていたということが、まあある。

おすすめは、複数の少数民族の料理を扱うレストラン「タインインター」(Taing Yin Thar/住所:Corner of May Kha Rd., & Parami Rd., Mayangone Tsp.,Yangon) で食べられる

「カチン族の豆サラダ」。様々な豆をミックスした料理で、サラダというより和え物だが、出てきた途端、テーブルに漂う香りはまさしく納豆。納豆好きにはたまらない仕上がりとなっている。

ミャンマー料理の意外な一面を知りたい方におすすめの一品だ。

「PUNTA」(2015年6月26日掲載)



糸の引きが日本のものより少ないシャン州の納豆



こちらはミャンマー全土で見られる乾燥タイプの納豆



「タインインター」の「カチン族の納豆サラダ」

【いたさか・まき】 京都大学大学院人間・環境学研究所修了。日本でのライター業を経て、2006年より、上海およびハノイで現地情報誌の編集を務めるかたわら、日本の雑誌・webなどへ寄稿。取材コーディネーターにも従事。現在はヤンゴンに在住。



世界に類を見ないワイン・プロモーション『Generation Riesling』

岩本 順子 (在ドイツ)

ドイツワインのマーケティング機関「ドイツ・ワインインスティトゥート」の発案で2006年にスタートした、若手醸造家のワインのプロモーション・プロジェクト、「Generation Riesling (ゲネラツィオン・リースリング)」が実を結んでいる。「Generation Riesling」は、ドイツの全ワイン生産地域の35歳以下の若手醸造家が、自主的に参加できるフレキシブルなグループ。名称に「リースリング」とあるのは、同品種がドイツを代表する白ワイン品種であるため。リースリングの造り手に限定した組織ではない。

ドイツの若手醸造家の多くは、国内外での豊富な研修経験があり、大学で醸造学を修める者も多く、グローバルな視点とトレンドを読む力を持つ。彼らは栽培方法、醸造工程に工夫を加え、商品構成を改め、エチケットをシンプルにし、新たな流通経路を開拓するなど、親たちの世代が積み上げた土台に新風を送り込んでいる。新しく醸造所を立ち上げた若手醸造家たちもいる。

現在、約500の醸造所の若手たちが「Generation Riesling」に参加し、ドイツ国内や世界各地でプロモーションイベントを開催したり、ワイン関連見本市で共同ブースを設置している。過去には、主要マーケットである、英国、米国、カナダ、スイス、オランダ、スウェーデン、ノルウェー、日本でプレゼンテーションが行われている。国内主要都市での恒例のプレゼンテーションには、毎回約30人の造り手が出張する。最大の行事は年に1度行われる「Generation Riesling フォーラム」。多い時には約80醸造所が参加するワークショップだ。昨年のフォーラムでは「インターネット・ワインマーケティング」「対英国輸出」などのテーマでディスカッションが行われた。

「Generation Riesling」は年齢制限があるため、メンバーが常時入れ替わる。毎回のプレゼンテーションの参加醸造所も流動的だ。次世代がいる全ての醸造所に参加のチャンスがあり、ビジターは常に新しい醸造所を発見することができる。参加醸造所のワインの多くは、それまで地元で消費されていたケースが多く、大都市においてはほぼ無名、しかもコストパフォーマンスが良い。大都市では、毎年のプレゼンテーションを心待ちにしているワイン関係者が多い。

ドイツ・ワインインスティトゥート広報部長のエルンスト・ビュシャー氏は「他国でも近年、販促活動において若手醸造

家にスポットを当てようとしています。約500名もの若手醸造家が、1つのブランド名のもとに結集している全国的な組織活動は世界に類がありません。来年は『Generation Riesling』誕生10周年を迎えるので、大規模なイベントを準備中です」と語る。

「Generation Riesling」の影響力は大きく、同類の組織がドイツの各地方に誕生しており、相乗効果をもたらしている。「Generation Pfalz (ゲネラツィオン・ファルツ)」はファルツ地方の40歳以下の醸造家グループでメンバーは20名、「Generation Pinot (ゲネラツィオン・ピノ)」はピノ種が多く栽培されているバーデン地方の、39歳以下の造り手46人が結集した組織だ。中には「Generation Riesling」の活動と掛け持ちしているメンバーもいる。

「PUNTA」(2015年10月15日掲載)



今夏ハンブルクで行われたプレゼンテーション会場風景
©Deutsches Weininstitut



ドイツ・ワインインスティトゥート広報部長のエルンスト・ビュシャー (Ernst Büscher) 氏 ©Deutsches Weininstitut

【いわもと・じゅんこ】ライター、通訳・翻訳者。神戸市出身。南山大学独語学独文学科卒業後、神戸のタウン誌編集部勤務。1985年にドイツ・ハンブルクに移住。主な執筆ジャンルは、ヨーロッパとブラジルのワインと食生活、ビオ&ビオディナミ農法、醸造家、農業家のポートレートなど。このほか、旅、戦後ドイツの若者文化、移民文化、外国人労働者問題。



万能植物ヘンプが地球を救う?! ファッション、スキンケアから住、自動車、食料品まで

川崎 陽子 (在ベルギー)

「ヘンプ(産業用大麻)のオイルやナッツは健康食品として利用してきたけど、最近Tシャツも買ってみたらすごく着心地がいいのよ」と、ドイツ人の友人は一層ヘンプのファンになったらしい。彼女のような、「少し割高でも、毎日の食料はほとんど無農薬栽培の原料から作られた BIO 製品」というドイツの環境志向派が、BIO に続いて傾倒しているのがヘンプ製品だ。

産業用のヘンプには、医療用大麻と異なり薬理成分が 0.2% 未満しか含まれておらず、農薬なしでも約 100 日で 3~4m に成長し、土壌改良効果など優れた特性をもつ。欧州では 1989 年に合法化されて大規模栽培が進んだ。欧州ヘンプ組合によると、EU 内の生産量も中国からの輸入を加えた消費量も、昨年新記録を達成した。その用途は多岐にわたっている。日本でも近年かなり浸透しているヘンプ商品の品揃えと比べてみてはいかがだろうか。

例えばヘンプ専門店では、衣類、バッグ、小物類、化粧品類からオイルやナッツ、チョコレートや飴、ビールまで、ネットでも購入できる。また、ドイツで開発されたヘンプ断熱材は人体にも優しく、建物の省エネやエネルギー効率かつ室内環境向上のため需要が高まる一方だ。さらに、メルセデス・ベンツや BMW などの自動車業界では、内装材にヘンプを使用している。

ドイツ公共放送の科学番組を頼りにヘンプ史を辿ってみよう。医食同源の長寿食として知られるヘンプの実は、約 1 万 2000 年前からペルシャや中国で栽培されていた。ローマ帝国ではヘンプを巡る戦争もあり、戦場では傷の治癒に葉が重宝されたという。1455 年最初の聖書印刷や、1776 年アメリカ独立宣言草案に使われたヘンプ紙は、木材原料の紙よりもはるかに耐久性が高く、変色しないらしい。太古の昔から最も有用な植物として利用されながら、1930 年代には医薬品・綿製品・製紙業界などのロビイストによって市場から放逐されたヘンプ。だが、最近世界各地で盛んに復活してきた。とりわけ、15 世紀にコロンブスがもたらしたヘンプで 19 世紀に最初のジーンズが作られたアメリカでは、医療用大麻までも合法化する州が増えつつある。縄文時代から大麻(おおあさ:注参照)と共に生きてきた日本はといえば、戦後 GHQ による占領政策「大麻取締法」に

よって禁止されたこともあまり知られていない。だが、北海道議会が産業用大麻に取り組むなど、ようやく伝統産業が甦る兆しが見えてきた。ヘンプの種子油を車の燃料にする試みなども行われている。

ヘンプ人気上昇中のドイツに戻ろう。冒頭の友人のような BIO 製品を求める消費者が増え続けた結果、どこかのスーパーでも様々な BIO 商品が手頃な値段で買えるようになった。最近ヘンプ専門店では品切れが多く、ヘンプを売る BIO 専門店も増えている。ドイツでは、ヘンプ製品も BIO のように、どこでも買えるようになる日が案外近いかもしれない。

とはいえ、子どもたち以降の世代が生きる地球のためには、世界中でヘンプ栽培を促進するほどの消費者の意識改革が急がれる。「地球環境を救う万能植物ヘンプの復活は、あなたの消費行動にかかっている」といっても過言ではないだろう。(注)大麻草には、ヘンプ、大麻(たいま)、大麻(おおあさ)、マリファナ、カンナビス等の様々な呼び方がある。本稿では、NPO 法人ヘンプ製品普及協会理事、赤星栄志(あかほしよしゆき)氏の説に拠り、海外での産業用大麻を「ヘンプ」という呼び名に統一した。同氏は、大麻(おおあさ)とは、天照大神の印、自然崇拜、民族、風習、生活が一体となった日本の伝統材料とし、ヘンプとの違いを再定義している。

「PUNTA」(2015 年 3 月 15 日掲載)



左上から時計周り)さまざまに染められたカラフルな商品も。ヘンプの収穫(c)Foto Hock、ダッシュボードとドアの内装にヘンプを使った BMW の電気自動車断熱材(c)BMW GROUP、ヘンプ断熱材(c)Foto Hock

【かさわき・ようこ】日本で大学卒業後、半導体関連材料研究員、外資系の液晶基板エンジニアを経てドイツ・アーヘン工科大で応用工学修士(環境学・労働安全)取得。主に日独の環境政策の違いはどこから生じたのかを調べるうち、日本の中央集権官僚政治と報道の自由が乏しいメディアの問題にたどりつく。現在ドイツ・ベルギー・オランダ国境地域在住で、主に欧州ドイツ語圏(ドイツ・ベルギー・オーストリア・スイス・ルクセンブルク)の情報を発信。



Global Press Annual Clippings 2015

米国の街角に増える救急医療室 便利だが高額な施設料

片瀬 ケイ (在米国/ダラス)

ーダラス・アメリカ

米国の街角にある小規模ショッピングセンターの定番といえば、コーヒーショップやピザ屋、クリーニング店、新しいところではヨガ・スタジオといったところだが、最近、特に富裕層の住む地域では24時間制の救急医療室(ER)が軒を並べるようになってきた。

ERは一般的に病院に併設されているが、このところ目に付くのは、開業医や民間投資家が開設する救急医療のみの単独施設だ。救急医が常駐し、救急車も受け入れる。CTスキャンなどの精密検査もその場でできるが、入院設備はない。テキサス州の場合、2011年には単独ERは25カ所だったが、今では150カ所と急速に増大している。

一般的に米国では病気になると、まずはプライマリ・ケア医(かかりつけ医)の予約をとる。夜間や休日の急病だと、病院の救急医療室に飛び込むことになる。ただし病院のERは、患者の医療保険の有無や収入に関わらず診察する義務があるので、お金のない人は緊急性がない症状でも来院する。そのため、病院のERは様々な患者でごった返しており、不満な患者が多い。ピカピカの設備とお洒落な待合室を整えた24時間制のERが町中に増えていくのは、時宜を得た展開といえる。

しかし、単独ERが富裕層の居住地に増えていることに注目してほしい。救急医療施設は診察料の他に施設料を請求できるので、一般の診療所と同じ診療内容でも、保険会社や利用者に3~7倍の料金を請求できる。よって、街角のERは報酬の高い民間医療保険加入者か、自己支払能力のある人だけを受け付けることとなる。

筆者の友人は昨年、土曜の夜に息子が指を骨折し、近所にできたばかりの単独ERを訪れた。待ち時間もなくレントゲンを取り、親切に対応してもらいその場は満足だったが、850ドル(約10万円)の請求書を目にしてギョッとしたという。しかも応急処置だけだったので、改めて別の病院でギプスをしてもらう必要があり、さらに費用がかかったと嘆く。

収益性が高い単独ERは経営側にとって魅力だ。一方で、利便性と安心感を与えるものの、応急手当だけのサービスに対し、高額な費用を請求するビジネスモデルがどこまで支持されるのか。先を考える施設は、自宅療養中の人の緊急短期受け入れ用に、数床のベッドを入れてミニ病院機能を持たせることも検討しているらしいが、請求金額が気がかりでゆっくり休めるかどうかは疑問である。

「投資家ネット」(2015年8月13日掲載)



ヨガスタジオがあった場所がなくなり、救急医療室がオープンした。

【かたせ・けい】フリーランス・ライター、翻訳者。東京生まれ。神奈川大学スペイン語学科卒。東京都の行政専門紙の記者を8年勤めた後、1995年に渡米しカンザス大学でジャーナリズム修士号取得。カンザスシティ・パブリックTVを経て、在米の米系、日系企業に勤務。現在は米国人のミュージシャン兼業主夫とともに、テキサス州ダラス市に在住。卵巣がんサバイバー。



Global Press Annual Clippings 2015

自治体主導で包括的に気候保護。北ドイツ・ハノーファーの場合

田口 理穂 (在ドイツ)

ドイツは2022年に脱原発を決めており、再生可能エネルギーを積極的に導入するなど気候保護に取り組んでいる。今回は、北ドイツに位置する中堅都市ハノーファー市の取り組みを紹介したい。

同市はニーダーザクセン州の州都で、人口52万人。日本では環境政策というとフライブルクが有名だが、同じような取り組みは他都市でもしており、フライブルクが特別というわけではない。ハノーファーには気候保護専門の課があり、

独自の政策を展開している。1990年市議会で脱原発を決めており、原発の電力を市内に入れられないという決断をしている。

また公共施設の改修を通じて毎年48000トンの二酸化炭素削減を目指し、2020年までに電力の9割を自然エネルギーでまかなうことを目標としている。さらに全国で19の自治体や地域が参加する、連邦環境省のパイロットプロジェクト「マスタープラン100%気候保護」に参加し、2050年までにCO2の排出量を1990年比で95%削減し、エネルギー消費量を半分にするよう積極的に取り組んでいる。同プロジェクトは2012年7月から2年間でマスタープランの概要を策定し、2014年から2016年にかけて実行に移すもので、プラン策定には地元の専門家や環境団体5000人以上が関わった。

建物のエネルギー効率化にも力をいれており、2007年に市議会は、新設する公共施設のすべてをパッシブハウス仕様にすることを決めた。パッシブハウスとは太陽や空気中の熱エネルギーを効率的に利用し、暖房エネルギーが1年間で1平米あたり15kWh、灯油約15リットル分以下となる住宅である。

南向きに大きな窓があり、壁や屋根に断熱材をいれ、空気調整器で換気をする。最大8割暖房エネルギーが節約できるとあって、幼稚園や公民館などすべてパッシブハウスで建てたほか、既存の建物の改修工事も進めている。

これらの目標達成には市民の協力が必要だとし、さまざまなイベントを通じて啓蒙活動を行い、省エネ相談や補助金支給も行っている。ドイツでは法的枠組みを整備し、経済的なインセンティブをつけて、官民そろって実現に向けて努力するしくみがある。

「PUNTA」(2015年9月30日掲載)



ソーラーハウスで太陽エネルギーについて学ぶ

【たぐち・りほ】 ジャーナリスト、裁判所認定ドイツ語通訳。日本で新聞記者を経て1996年よりドイツ在住。州立ハノーファー大学社会学部卒業。著書に「市民がつくった電力会社」(大月書店)、共著「『お手本の国』のウソ」(新潮新書)など。



Global Press Annual Clippings 2015

戦後70年、「忘れない決意」が開く未来

田中 聖香 (在ドイツ)

【グローバルレポート ドイツ】

財政危機、政治のねじれ、若年雇用、少子高齢化など日本が抱える難問は、実や多くの国が共有して直面している問題だ。

一国の危機が瞬間に世界に連鎖するグローバル時代。各国では今どんな問題が焦点化し、人々はどうか考え、どうか行動しているのか。海外在住日本人ジャーナリストによるドイツからのレポートを紹介する。

戦後ドイツは、ナチズムへの反省を精神的基盤として発展してきた。ホロコースト(ユダヤ人大虐殺)の道義的責任を認め、犠牲者に償い、過ちを繰り返さないため啓蒙活動を徹底すること。政府主導で実践してきた国を挙げた取り組みが、敗戦から70年を迎えた今、大きく実を結んでいる。

<人道に対する罪への自覚>

今年7月15日、ドイツ北部リューネブルクの地方裁判所

で、元ナチス親衛隊員オスカー・グレーニング被告(94歳)に対する判決が言い渡された。殺人ほう助罪、禁錮4年の刑である。同氏は第二次大戦末期、アウシュヴィッツ強制収容所で会計係を務めており、収容所に到着した人の荷物を検査し貴重品を抜き取る任務を通して、約30万人の殺害に関わったことを認めていた。公判前、遺族に対しては「道義的に自分にも責任があったことは疑う余地がない。どうか許してください」と述べている。

グレーニング被告の発言は、ドイツの戦後を象徴している。他国を侵略併合し、推定600万人ものユダヤ人を計画的に殺害した国家社会主義(ナチズム)の蛮行。戦後のニュルンベルク裁判では、それを国際法違反としてだけでなく、「人道に対する罪」として裁くことを定めた。被告は自分で銃の引き金を引いたわけでも、ガス室のドアを開けたわけでもな

い。しかし、大量殺戮システムの一部であることを拒否しなかったために、人道に対する罪を犯したことを、終戦から70年たって認めたのである。そして司法も70年前の罪を厳格に裁いた。

戦後のドイツ政府のあり方も、同じ「人道に対する罪」への自覚が根底にある。戦後の歴代首相は、機会あるごとに過去の罪を認めて犠牲者に謝罪する意思を表明してきた。1970年12月、ヴィリー・ブラント西ドイツ首相（当時）が、ワルシャワのユダヤ人強制移住区だったゲトローでの武装蜂起を覚える英雄記念碑の前にひざまずいた姿は、その端的な例だろう。アウシュヴィッツなど大規模な強制収容所の解放日には、今でも毎年必ず政府首脳が列席して追悼行事を行う。

今年4月、ベルゲン＝ベルゼン強制収容所の解放70周年に際し、ガウク大統領は現地で遺族を前にこう語った。「ドイツ人は1933年から45年の間、ヨーロッパ全土で途方もない罪を犯した。われわれは過去の教訓を生かし、現在起こっていることに目を向けなければならない」。

<ナチの凶行を風化させず>

ドイツ政府は戦後まもなく、犠牲となった人々への補償を開始した。補償金の内訳は犠牲者への年金、強制労働従事者への慰謝料、ユダヤ人亡命者のイスラエル編入に際しての補助金、子ども時代の迫害の後遺症に苦しむユダヤ人のための基金など多岐にわたり、戦後から2013年末までにドイツ（旧西独および東西統一後のドイツ）が拠出した金額は、計710億ユーロ（約9兆2300億円）にも上る。

戦後の司法もまた、ナチズムの凶行を二度と繰り返さないことを柱としている。戦後制定されたドイツの憲法である「基本法」は、性別、出生、人種、宗教などを理由とするあらゆる差別を禁止するものだが、同時に自由民主主義原則に反する政治活動も違憲としている。かつてナチズムが「選挙」という合法的な手段で政権を掌握したことへの警告を込めた、「闘う民主主義」の理念である。この基本法によって、ネオナチの煽動行為は刑法で処罰の対象となる。ナチ戦犯に対する裁判も、戦後今日まで継続して行われてきた。

これと並行して、戦後ドイツでは国民に対しても積極的に教育啓蒙活動を展開してきた。政府の公式ウェブサイトでは、「想起と記憶」というテーマのもと、大戦関連の「行事」「記念碑」「スピーチ集」など豊富な情報にアクセスできる。ボンとベルリンの「連邦政治教育センター」でも、ドイツの歴史と政治に関する膨大な資料を公開し、ベルリンの「ドイツ歴史博物館」では今秋まで特別展『1945 敗戦・解放・新しい出発』を開催している。さらにミュンヘンにも新たに「国家社会主義文書センター」を開設するなど、戦後70年たった今、反ナチズムの啓蒙活動は衰えるどころか、ますます活発化している印象がある。

教育の現場はどうだろう。ドイツの学校では、歴史の授業は1800年以降の近現代史が中心で、「未来のための記憶を想起すること」を指針としている。筆者の息子が通うギムナジウムの歴史教師は、「歴史の授業は政治の授業と同義です。過去を批判的に見た上で、過去と現在の関係を明らかにしています」と話してくれた。同校では高学年の生徒を対象に、毎年強制収容所跡への校外学習を実施している。

<「忘れないこと」への強い思い>

皆さんは、学校や博物館はともかく、家に帰れば過去は無関係になるだろうとお考えだろうか？ 大間違いである。ドイツでは現在でも、ナチズム関連のテーマがテレビに頻出するからだ。戦犯の公判や強制収容所の解放記念日は、その日のニュースで必ず取り上げられ、関連のドラマやドキュメンタリーは高視聴率を獲得する。

終戦70年に当たる今年、公共放送のドイツ第一テレビ（ARD）ではすでに13本の関連番組を放映した。その一つ、『アウシュヴィッツに行く』では、ドイツ各地に住む20歳前後の若者たち数人が、自分の意思でアウシュヴィッツを訪れる。番組では、訪問前後の彼らの心境の変化をインタビューで浮き彫りにする。彼らが現地で犠牲者たちに自分を重ね合わせ、打ちのめされて沈黙し、最後には「忘れないこと」への思いを強めて帰郷していく姿が印象的だった。

また年頭から5月の終戦記念日にかけて、命がけでユダヤ人の子どもを収容所内にかくまった囚人たちを描いた『裸で狼の群れのなかに』や、ヒトラー自殺後に残されたナチス親衛隊員や政治犯を描いた『ナチス親衛隊の人質』など長編テレビ映画も数多く放映された。こうした作品は海外にも輸出され、高い評価を得ている。

こうした教育啓蒙活動のおかげで、ドイツでは記憶の継承に対する国民の意識が高い。高級紙『ツァイト』の2010年の調査では、45歳以下の世代の約7割が「国家社会主義に興味がある。もっと知りたい」と回答している。政府、教育、メディア、そして国民が「忘れない」という思いで結ばれているからこそ、ドイツは戦後ヨーロッパで絶大な信頼を獲得し、欧州連合の牽引役として主導的な役割を果たすまでに至ったのだ。ドイツの一部の若者たちからは「もうナチズムへの反省はうんざり」という声も聞かれるが、戦後の清算に真正面から取り組んできた国のあり方が、彼らの世代にどれほど貴重な実りをもたらしたかは計り知れない。

その一方で、国内でネオナチが活動しているのも事実である。憲法擁護庁の調べでは、ネオナチや極右政党党員など極右思想を支持する者の総数は、2013年時点で約2万3000人に上る。今年に入り難民用施設への放火や新聞社社屋の破壊行為などの事件が起きており、ネオナチの犯行と推定されている。また、彼らとは別の動きとして、一般市民が

参加する「西欧のイスラム化に反対する欧州愛国主義者」という団体も結成された。アラブ諸国からの亡命希望者がここに来て急増しているため、国内の右傾化には一層の警戒が必要となるだろう。

それでも、ドイツには極右思想の脅威を封じ込められる強靱さがあると私は確信している。行政や司法の厳しさだけではない。政府と国民が戦後70年間、手を携えて築き上げた共通認識があるからだ。ナチズムの誤りを二度と繰り返さない、そしてヨーロッパの中のドイツとして生きる、という認識である。大戦の生き証人がいなくなっても、戦後ドイツが獲得した「良心」は生き続けるに違いない。

「ハフィントンポスト日本版」(2015年7月15日掲載)



ドイツではどんな小さな町にも必ず戦没者の慰霊碑がある。ホロコーストの犠牲者だけでなく、一兵士として亡くなった人にも思いを寄せる

【たなか・みか】 愛知県生まれ。関西学院大学文学部卒、ロンドン・スクール・オブ・ジャーナリズム修了。1992年からドイツ在住。ドイツ社会をテーマに執筆、インタビュー記事を得意とする。共著に『世界で広がる脱原発』。「在外ジャーナリスト協会」メンバー。



Global Press Annual Clippings 2015

ハリウッド女優がソーシャルビジネスに賛同！ランジェリーブランド Naja のさらなる挑戦

寺町 幸枝 (在 日本/米国・ロサンゼルス)

今年10月、ゴールデングローブ受賞女優であるジーナ・ロドリゲスが、エシカルランジェリーブランド「ナヤ (Naja)」の共同CEOに就任した。同社はそのクオリティーやデザインだけでなく、環境保全に考慮した下着生産モデルを構築したことで注目されている。さらに今回ロドリゲスの参加で、もう一つの企業ミッションである女性の活躍を推進する企業として、さらなる一歩を踏み出した。

「ナヤ」は元敏腕女性弁護士で、コロンビア出身のカトリーナ・ギラルドが資金集めに成功し、昨年サンフランシスコで設立されたばかりのオンライン下着ブランド。立ち上げ早々からランジェリージャーナルが「注目すべきトップ5下着ブランド」の一つにあげるほどの人気ブランドに急成長した。

「ナヤとパートナーを組むことに、なんのためらいもなかったわ。ランジェリーとしての美しさや仕立ての良さに限らず、企業として追求しているミッションは、私の思いとぴったりと重なったの」と語るのは、米国で活躍するラティーナ女優のジーナ・ロドリゲス。ロドリゲスは、ドラマ「純潔のジェーン (Jane the Virgin) <https://www.facebook.com/cwjanethevirgin>」で、昨年コメディ番組賞と主演女優賞の二冠に輝いた若手女優。今最も注目を浴びている女優の一人だ。

何と言っても「ナヤ」の凄みは、スタートアップ企業にもかかわらず、下着の生産工程のあらゆるサプライチェーンを掌握していること。デジタル機器を駆使した自社工場での生

産で、通常のアパレルが持つリードタイムを80%まで削減できるだけでなく、無駄な在庫を持たずに利益を確保できる仕組みを作り上げた。また環境への配慮にも着目し、同社の製品の50%は、リサイクルプラスチックの再生でできた生地を使用。これにより、社会のゴミを還元し続けることができるという。

そして「ナヤ」のもう一つ重要なミッションは、女性、特にシングルマザーのサポートだ。工場のあるコロンビアで、シングルマザーあるいは家族の経済的な大黒柱になっている女性たちを積極的に採用し、安定した収入を与えるだけでなく、家族サポートのための福利厚生を整備している。「ドラマの撮影中に、学生時代の友人が4歳の一人娘と一緒に私の小さなアパートに住んでいたことがあったの。その時シングルマザーの大変さを身をもって知ったわ。そして、ナヤがシングルマザーたちのサポートを行っている企業だと聞いて、ぜひ自分も関わりたいと名乗りを上げたの」とは、前述のロドリゲス。「ナヤ」が構築した「アンダーウェアフォーホーププログラム (Underwear for Hope) <http://www.naja.co/pages/underwear-for-hope>」により、商品代金の2%が。このプログラムは、従業員たちにフレキシブルな労働時間を提供するだけでなく、彼女たちの子どもたちの教科書や制服の購入代金を負担するといったもの。

とはいえ、製品そのものがよくなければ所詮人気は出な

い。「ナヤ」はあらゆる女性のための下着、というだけありブラジャーのサイズや形も豊富な上、つける女性が楽しめるメッセージを下着の内側に入れるなど、人の心を揺さぶるようなデザインが施されている。また、当初予算の関係で創業者であるギラルド自らデザインをしていたが、いまでは彼女のウィットに富んだアイデアやデザインが、ブランドの成功を牽引しているといっても過言ではない。例えばメモリーフォームを利用し、押しつぶされても型崩れしないブラカップを採用したり、デジタルプリントで寿司やハンバーガー柄をパンティーを描いたものは、美しい高級レースの下着と並びブランドの人気を支える。パンティー 12 ドル〜、ブラジャーが 50 ドル前後という価格は、人気下着ブランドヴィクトリア・シークレットとほぼ変わらない価格あるいは少し手頃だ。

まさに、女性の、女性による、女性のためのブランド。これからますますブランドへのニーズは高まっていくだろう。

「PUNTA」(2015 年 10 月 27 日掲載)



共同 CEO に就任した女優のジーナ・ロドリゲス (左) と、創業者のカトリーナ・ギラルド (右)

【てらまち・ゆきえ】Funtrap の名で、2005 年よりロサンゼルスにて媒体製作、取材執筆やコーディネート活動をした後、2013 年より東京と LA の両方を活動の拠点に。現在南カリフォルニアや米国の情報をもとより、台湾また日本国内についての情報も発信中。得意分野はファッション、ソーシャルビジネス、食文化、カルチャー全般。Global Press 理事。



Global Press Annual Clippings 2015

悲鳴を挙げる欧州社会

栗田 路子 (在ベルギー)

＜スマホで情報を得ながらボートや列車で移動する難民＞

海岸に打ち上げられた幼いシリア難民少年の哀れな姿――9 月初め、英国の主要紙ザ・ガーディアンが第一面に掲載した衝撃の写真を機に、世界のメディアが欧州難民危機を伝えるようになった。欧州への庇護申請者数は例年 20 ～ 30 万人を推移していたが、シリア内戦で激増。2014 年は約 63 万人、今年は 100 万を突破すると予想される。寛容の精神を標ぼうする欧州社会も、あまりの数に悲鳴をあげる。

これほどの難民がなぜ欧州を目指すのだろう。

欧州は、国連難民条約 (1951 年および 67 年) に沿って、欧州連合の基本条約やその後の数多くの法令で、人権擁護の精神に基づいた難民受け入れを推進してきた。

だが、イラク、アフガニスタンなどでの紛争に加え、中東や北アフリカのイスラム社会で起こった「アラブの春」と呼ばれる反政府民主化運動によってその数は増加。近隣諸国 (トルコ、レバノン、ヨルダンなど) に身を置きながら第三国への受け入れを待ってきたシリア難民 400 万人が、季節

の良くなる今年春、欧州への大移動を始め、国内難民 600 万人が後に続くとも言われている。

彼らは当初、南周りで地中海を渡り、イタリアやギリシャの小島に漂着した。欧州連合が沿岸警備を強化すると、夏頃からは、トルコを横断しバルカン半島を北上するルートに毎日数千人が押し寄せた。玄関口となったハンガリーがやむなく国境を閉ざす強硬手段に出ると、迂回してクロアチアへ。

今日のシリア難民の多くは、仲介業者に費用を払ってボートや列車で移動し、スマホを駆使して情報を得ながら、まとまって行動する。目指すは、欧州北部のドイツ、スウェーデンなどだ。すでに入国した難民やネットの情報で、仕事を得やすく、イスラム教系移民に寛容と聞くからだ。

＜国境検査をなくしたシェンゲン協定＞

欧州では、シェンゲン協定により合意国間 (26 カ国) に国境検査がなくなっている。また、シェンゲン圏境界にあたるギリシャやハンガリーなどでも壁があるわけではないので、ゴムボート、列車や徒歩などで簡単に国境を超えられる。

「人道」を掲げた難民たちが一気に押し寄せても、押し返すことも妨害することもできず、彼らを食い物にする悪徳業者を摘発して安全な渡航を見守り、水や食べ物を提供するしかない。

イタリアやギリシャやハンガリーが悲鳴を挙げたのは、EUの法律（ダブリン規則）で、最初に登録を受けた国が、その審査決定に責任ありとされているからだ。登録手続きだけでも、毎日数千人も押し寄せればたちまち処理能力を超える。

仮の滞在許可取得後は、その国に留まることにはいるが、実際はどこへでも行ける。中には、国際法上の庇護が必要とみなされていない国からの経済難民も多い。IS(イスラム国)は、多くのテロリストを難民に紛れ込ませたと吹聴している。登録を受ける国は、慎重な審査でこうした偽装難民を見破り、本国送還しなければならない。

シリア難民の積極受け入れを推進してきた欧州連合は、昨年、移民・難民問題を10の優先課題の中に位置づけて担当委員(大臣相当)を設置。今年春には、「移民・難民アジェンダ」の緊急施策で70億ユーロ以上の予算を付け、周辺国支援に約60億ユーロの拠出を決定。集中する地域にFRONTEX(欧州対外国境管理協力機構)やEASO(欧州庇護支援事務所)などの専門家を動員している。

9月初め、欧州委員会のユンカー委員長は、「我々のほとんどが、かつて、難民だったではないか。我が身を振り返って、正義を貫く時ではないか」と演説して、さらなる人権擁護と結束を力強く呼びかけた。

その結果、加盟国は、ギリシャ、イタリア等に押し寄せている難民のうち16万人を分担して引き受けることに合意した。割り当て数は、各国の人口、GDP、失業率、庇護申請受理実績などから算出されるが、ドイツ、フランスなどが最多。移民受け入れ数だけを見るなら、英国やイタリアでも多く、人口比換算すればマルタ、ルクセンブルク、デンマークなどの小国も少なくないが、各国のえり好みと難民側の行きたい国とのマッチングは単純ではない。確かに少子化による人口減を見越して労働力確保を狙う意図は見え隠れするが、打算以上に人道援助・人権擁護の精神が市民社会に根付いていなければ、移民受け入れは難しい。

<EU主要機関を擁する小国ベルギーは>

人口1000万人、キリスト教民主主義基盤の強い北部ゲルマン系民族と、社会主義基盤の強い南部ラテン系民族が共存する小さな連邦国家ベルギーは年6,000人ほどの移民を受け入れているが、8月以来数千人がすでに押し寄せ、第一段階(66,000人)の割り当て分として、ギリシャ、イタリ



シリアから欧州を目指す難民の主要ルート © KS Graphics - Michiko Kurit



セルビアからハンガリー国境(シェンゲン圏境)に押し寄せる難民 © European Union, 2015
アから約2,500人が移送される。

現状では庇護登録手続きは1日250人が限界。ブリュッセル北駅前の外国人登録事務所横の公園には、瞬く間に難民テント村ができ、ネット上に「難民のための市民プラットフォーム」が立ち上がり、赤十字や世界の医療団、一般市民がかかわって難民生活を支援し始めた。地元の大学生は寺子屋を開校し、高校生がクラス単位でやってきて黙々とゴミ拾いに励む。誰に頼まれたのでもないボランティア市民が、消耗品や衣料品の寄付を運び込む。

当の難民たちはといえば、座り込んでスマホを見つめ、食事や水の配給を待つ。高校生のボランティアが、「あの人達だって、ゴミ拾いできるじゃない」とつぶやいた。「ただでさえ失業率が高いのに」、「築き上げてきた高福祉にただ乗りされるのか」、「キリスト教社会にイスラム教徒がはびこるのは嫌だ」などの声が、巷でかなりおおっぴらに聞かれるようになった。

冬が近い。仮設テントでは越冬はできない。連邦政府は公共ビルの空きスペースを利用した室内避難所の準備を急ぎ、一般家庭までが、自宅を開放して難民を受け入れる。政府のスローさに抗議して、10月2日、市民プラットフォームがテント村一斉撤去の強行手段に訴えた。肌の色どころか、言語も、宗教も異なる遠来の難民のために、こんなに腹をたて、行動できるベルギー人に、畏敬の念を抱く。

朝日新聞社「WEB RONZA」(2015年10月30日掲載)

【くりた・みちこ】EU(欧州連合)の首都ブリュッセルを擁するベルギー在住20年余り。上智大学卒業後、米国およびベルギーの経営大学院にてMBA取得。EUおよびベルギーの政治・社会事情(環境、福祉、医療、難民問題、教育など)を生活者の目線で発信中。Global Press 理事。



いままでと同じ生活をする、それがテロへの答え 【パリ同時テロ点景】

鎌田 聡江 (在フランス)

「おまえらの思惑にはまるものか」 2015年11月13日(金)の夜に起こったテロ事件に対し、パリの人々は恐怖を乗り越えて通常の生活をしようとしている。1月のシャルリエブド社襲撃事件の時は、「私はシャルリ：Je suis Charlie」がスローガンだったが、今回は「テラス席(外の席)にいるよ：Je suis en terrasse」「怖くなんかいないぞ：Meme pas peur」を掲げている。

光の街パリで130人の死亡者と、多くの負傷者をだした無差別テロは、世界の人々に大きなショックをあたえた。犠牲者の多くは、レストランやコンサートを楽しむ20～30代の若者たちだった。テロが発生したパリ10区や11区は庶民的だがおしゃれなカフェや、流行のレストランが多く、若い世代に人気のエリアだ。そこで友達と飲み、たばこを吸って、バカなことをいいあって笑いころげる。多くの犠牲者が出たバタ克蘭劇場は、そんな若者たちが一階の立ち見席で歌って踊るような場所だった。平凡だけど、パリの生活を楽しむ明るい若者たちをフランス国内で事件を伝える記事は「バタ克蘭世代」と呼んでいる。11月13日のテロでは、そんな若者たちが標的になった。

翌日の土曜日は、政府より外出抑制令が出され、パリの観光名所、美術館、体育館、図書館が閉鎖され、街はしんとしていた。しかし、晴れわたった暖かな日曜日には、テラス席でお茶を飲む人、公園でジョギングや散歩をする人であふれ、いつもとさして変わらない休日の風景となった。夜になると事件現場のすぐ近くのカフェもテラス席が満席で、フランス人の心臓の強さに驚いた。

日本では多くの死傷者がでた事件の直後は、外出を控え、イベントは自粛されるだろう。だが、革命の国フランスはちょっと違う。いつ自分が狙われるか、巻き込まれるか、との不安や恐怖はもちろんある。しかし、恐怖にかられることこそが、テロリストの狙いなのだ。テロリストを憎むならば、許せないならば、彼らの思惑にはまってはいけない。バタ克蘭世代、そしてパリの人々は、事件現場に足を運び、花をささげ、ろうそくに灯をともし「犠牲になった君たちを忘れない」「(テロなんて)怖くもないぞ」と心に誓う。15人が銃弾に倒れたバー「ル・カリオン」の前で、静かにたたずんでいた男性は「近所に住んでいるので事件の直後にここを通ったから、銃声も聞こえたとし、道に倒れている死体もみた。でも、怖がった生活なんて送らない。それがテロリストの狙いだから」と今までと同じ生活をする」と語った。

テラス席で、ボジョレ・ヌーボーの解禁日に、ワインを飲んでいた女性は、「今回のテロは、無差別に銃で襲撃したから、気をつけていたって防ぎようがない。人生を楽しみ、喜びを分かちあい、テラス席でお茶やお酒を飲み、タバコを吸うフランス人のライフスタイル自体を、犯人たちは標的にしたのよ。人生を今までどおり楽しんで、彼らに挑むの」と笑顔で答えた。若者に絶大な人気を誇るオンライン・ガイドのフーディングは、「火曜日の夜(17日)は、みんなでビストロに行こう!」と、テロ後も自宅にこもらないように、外出をうながした。DJは「友達を家に呼んで、窓を開け放し、音楽をガンガンかけろ」とソーシャルネットワークでよびかける。これが、現代のパリ風のレジスタンス(抵抗運動)なのだ。

とはいえ、変化がないわけではない。週明けの16日の月曜日は、パリ近郊は記録的な大渋滞だった。地下鉄や電車などの公共交通機関の利用を恐れた人々が、車で通勤をしたからだ。通常よりも2割も交通量が増え、大渋滞を起こした。さらに、駅や店舗、オフィスビルに入る時は、カバンをチェックされる。街での警官や迷彩服を着て銃をもった軍人の警備の数が増えた。観光客は、パリ行きをキャンセルし、いつもなら何時間も行列しなければならぬエッフェル塔には、今なら15分ほどで入場できる。

筆者の日常にも変化があった。地下鉄の駅で不審物が発見されたため一時封鎖となり、2駅ぶん歩くことになった。コンサート会場に到着すれば、入り口でカバンの中身を確認するだけでなく、金属探知機でのチェックもあり、劇場前は長蛇の列。20分かかってようやく入場したら、チケットは完売のコンサートだったはずなのに、実際にはいくつかの空席がみられた。外出を控えた人もいるのだろう。

身の回りの知人たちにも、それぞれテロにまつわる経験があった。ひとりは、13日にスタッド・フランスでサッカーを観戦していて、爆発音を聞いた。別のひとりは、襲撃されたカフェの近くのバーで飲んでいて、そのバーが銃声を聞いてすぐシャッターを閉めたため、朝の3時まで帰宅できなかった。生後9カ月の子供がいる友人家族は、襲撃場所から徒歩2分のところに住んでいる。街にはテロの爪痕があり、不安になる。だから友人と集い、おいしいものを食べ、語り合うのだ。ここで生きていかなければいけない。

以前と全く同じパリの生活とはいえない。テロはこの街の人のくらしにも傷跡を残している。

* * *

そうしてテロリストが、キリスト教徒、イスラム教徒、ユダヤ教徒を憎み合わせることによって、フランス人を分断しようとしているなか、共和国広場に集まる人々は、そんなテロリストの思惑に対抗するため宗教に関係なく「フランス人」として連帯しようと心に決めているようだ。

フランス・イスラム教徒学生連盟の理事である女学生のデュニアさんは「イスラム国 (ISIS) の人たちは、私たちイスラム教徒とは全く関係ないの。同姓同名のように名前が同じだけど、全くの他人だわ。イスラム教のコーランには、人を殺していいなんて、どこにも書いていないのだから。イスラム教は、他人への敬意を払う平和的な宗教だもの」と、声高に語る。16日には、アブデル・タドマヤさん (31) が目隠しをして「僕はイスラム教徒です。みんなは僕がテロリストだと言っています。僕はあなた方を信用しています (目が見えない状態なので)。あなたはどうか？僕を信用しているならばハグしてください」というパネルを足元に置いて、4時間共和国広場に立った。彼をハグするフランス人があとをたたなかった。

悲しみの中から、フランス人たちは心のうちにテロリストたちへの静かな闘志の炎を燃やし、平常生活へと戻っている。

「朝日新聞出版 dot.asahi.com」 (2015年11月25日掲載)



襲撃時の銃痕が残るレストラン・バー「ル・カリオン」 写真: Toshie KAMADA



共和国広場に掲げられた「怖くなんかないぞ:Même pas peur」のスローガン 写真: Toshie KAMADA

【かまだ・としえ】フランス・パリ在住のライター。横浜市立大学文科国際関係学科卒業、南イリノイ大学政治学部卒業、パリ第八大学政治学部修士課程修了。日本での出版社勤務を経て、1998年よりパリを拠点に、フランスの文化・社会事情をレポート。フランス政府発行の外人記者証保持。フランスの食文化、職人のテーマを得意とする。日仏のテレビ・雑誌の撮影コーディネーターも担当。



Global Press Annual Clippings 2015

グルメ料理の材料は食品廃棄物。食品の無駄を減らすのに必要なのは一般人の意識改革

クローディア 真理 (在ニュージーランド)

9月末、国連で世界30カ国の首脳に、捨てられるはずの食材を利用したランチが出されたが、時を同じくして地球の反対側のニュージーランドでは、一般の人たちに、同様の材料で創られたグルメ料理がふるまわれた。

ニュージーランド国内で処分される食品は年間約12万トン、ほぼ26万人分の食事に相当する。まだ食べられるにも関わらず捨てられること、そしてその量の多さを常々憂いていた、北島はオークランドのレストラン「スケアクロウ」のシェフ、ベン・バートンさんは、「ウェイスト・ナット・ウォント・ナット (無駄がなければ、不足もなし)」と名づけたイベントを催した。B級野菜、従来捨てられていた食材の

一部、残りものを用い、工夫を凝らして創った料理を、ビュッフェ形式で楽しんでもらおうというものだ。

メニューの一部をご紹介します。

- ・チキンの皮のクロスティニーレバー、卵、パセリ乗せ
- ・テーブルビートの葉のペストーとマッシュルームのピクルを乗せたクロスティニー
- ・残りもののご飯と黒キャベツの茎を、ゼニアオイの葉で包んだドルマハーブ風味
- ・鯛のヒレのスモークバターとレモン・フレーバー
- ・野菜の茎のリゾット
- ・フダンソウのスープチキンストックにグリュイエールチー

ズとキャラメルオニオン、残り
・もののサワードウ・ブレッド入り

ビュッフェなので、料理を何回取ってきても良いが、残すのはご法度。もし残した場合は自転車をこいで発電、電球を15秒間光らせるというペナルティーが科せられる。遊び心がありながらも、こんなところにも環境への意識の高さを感じられる。

この30NZドル(約2,400円)のビュッフェ・ディナーに参加したのは30人以上。食品廃棄物でできた料理に最初不安を抱いていた人も、いったん食事が始まると、誰ひとり残すことなく、ビュッフェをエンジョイ。今まで捨てていた食品がいかに簡単に、そしておいしい料理に変身するかを身をもって体験した。

食品の廃棄を減らすのには、一般の人々の意識改革が手取り早そうだ。

「PUNTA」(2015年10月20日掲載)



どのメニューにもどんな料理なのかが書かれたプレートが付いている。これは、食べるかどうかを決めるのに役立つだけでなく、料理をする際に今まで捨てていた食材をどのように活用すればいいかのヒントとなる

【くろーでいあ・まり】東京で編集者・ライターとして勤務後、1998年にニュージーランドに移住。NZ国内で発行の日本語誌2誌の編集者、編集長などを経て、現在フリーランスライター。ニュージーランド航空やニュージーランド観光局の発行物やウェブサイト、ガイドブックや留学情報誌などのニュージーランド関連媒体への執筆を手がけた後、エコ、育児、異文化紹介関連の雑誌やウェブサイトへの執筆を中心に、ニュージーランドに関する情報を日本に発信している。



Global Press Annual Clippings 2015

全米で同性婚が合憲に 今後も続く「真の平等」への戦い

安部 かすみ (在米国・ニューヨーク)

<再祝福ムードにわいた決勝戦の日>

今月6日付けのCNNや『TIME』誌など各メディアは、女子サッカー選手のアビー・ワンバックさんと妻のサラ・ハフマンさんが、歓喜の中で熱いキスを交わしているシーンを大きく報じた。2015年FIFA女子ワールドカップの決勝戦で、アメリカが宿敵・日本を破り優勝の座を勝ち取った瞬間の様子だ。

ワンバック選手は自身を同性愛者と公言しており、2013年にはハワイでかねてから交際していたチームメイトのハフマンさんと結婚している。

決勝戦の日は、アメリカの連邦最高裁判所の判決により、全州で同性婚が憲法上の権利として認められた歴史的な日から9日後。また、判決の2日後の今月5日には、ニューヨークで夏の風物詩になっている毎年恒例のプライドパレードがタイミングよく開催されており、今年はいつにも増して盛り上がりを見せたばかりだった。

ワールドカップ決勝戦で会場にいた多くの観客に、ワンバック選手と妻・ハフマンさんの勝利の抱擁がいやが上にも微笑ましくうつったのは間違いないだろう。



アメリカ連邦最高裁判所前で揺れるレインボーフラッグ=2015年4月28日、(C) Ted Eytan

<戦いが終わったわけではない>

ニューヨークのマンハッタン区西13丁目に、LGBTの憩いの場とも呼べる文化センターがある。「The Lesbian, Gay, Bisexual & Transgender Community」(レズビアン、ゲイ、バイセクシャル&トランスジェンダー・コミュニティ。以下「The Center」)は、LGBTの人々をサポートするために1983年に設立され、イベントや文化系の講座、勉強会などを定期的で開催している。

The Centerのエグゼクティブ・ディレクター、グレンダ・テストーンさんは、同性婚合憲の判断について「長くて厳

しかった戦いが終わり、この瞬間がついにやって 来ました。LGBTの人々にとって結婚の平等 (Marriage Equality) が大きな前進 になったことは間違いないでしょう」と語った。し かしながら、同センターにとって祝 福ムードばかりではない。

同性婚合憲の判断は「一つの自由が認められたに過ぎない」とし、「差別が原因の暴力および貧困問題と、特に若年層を 中心とした薬物中毒、ホームレス、自殺などの 問題が山ほど残っています。これらを解決するための戦いは今後も続い ていきます」。真の平等 (Truly Equal) に到達するために、 引き続き課題に取り組んでいく とした。

<全国民は平等 (Equal) であるべき>

同判決関連のニュースで、オバマ大統領や合憲判決を支持 したケネディ判事のコメントとして、平等を表す「Equal」 「Equality」という言葉が何度となく出できた。

「平等」という言葉で思い出したのは、昨年 12 月の出来事。 筆者はゲイの友人に連れられて、前述の The Center を訪れ たことがあった。そこで開催されている勉強会に参加させて もらうためだ。

その日友人に連れられて行ったのは、「Planning Biological Parenthood for Women group」(女性カップ ルのためのバイオリジカル家族計画) という勉強会だった。 ゲストスピーカーが、レズビアンのカップル同士で精子バン クを使って出産した経験談をシェアするという内容だ。

ゲイの友人が以前参加して、いい経験になったというその勉 強会だが、筆者は同性愛者ではないので、興味本位だけで参加

したのだった。ちょっと見学しようという軽い気持ちだった。 <相手が誰であれ「受け入れる」「平等に扱う」姿勢>

参加者 7 人のうち、私とゲイの友人以外は、子供を作るこ とを希望している 30 代前後のレズビアンだった。主催者は 私たちにもフレンドリーに「どうぞどうぞ」と歓迎ムードで、 「初めは専門用語ばかりで分からないだろうから、質問があ ればご遠慮なく」と言いながら、ゲストスピーカーを含んだ 大きな輪に私と友人を入れてくれた。

まずは自己紹介からスタート。私も友人もレズビアンでは ないけれど勉強会の内容 に興味があって参加したことなど を自己紹介に交えたが、会の途中ではたびたび話を振られ、 見学どころか立派な参加者として扱われた。

終了後、レズビアンである主催者の子供が辺りを走り回っ たりして、実にアットホームな雰囲気だった。ゲイの友人は 「僕だけが男で恥ずかしかったけど、みんな温かく迎え入れ てくれたので良かった」と言っていた。

この経験はもう半年も前のことだが、今になって思うのは、 社会に不平等に扱われ、もがき苦しんできた彼らだからこそ、 相手が誰であれ「受け入れる」「平等に扱う」姿勢が当然の こととして根付いているということだ。今回の判決は長い闘 いの大きなランドマークだが、ゴールではない。ストレート (異性愛者)、LGBTの隔てなく社会があらゆる人々を受 け入れられるようになったとき、彼らに「真の平等」が訪れ るのだろう。

朝日新聞社「WEB RONZA」(2015 年 7 月 29 日掲載)

【あべ・かずみ】編集者、ライター。1994 年から 2001 年まで、日本の出版社で編集者として勤務(音楽 編集者 4 年、別冊ガイドブックの編集長 3 年)、2002 年よりニュー ヨーク在住。07 年 から 14 年まで、在 NY の日本語新聞社でシニアエディターとして勤務。退職後は IT 企業や 様々な日本語メディアで NY 情報を発信中。日米での 編集者歴 20 年。福岡県出身。



Global Press Annual Clippings 2015

中国の「トンデモ」をチャンスに ークルマ出張メンテ「カラディン」の急成長

斎藤 淳子 (在中国・北京)

悪名高い中国の自動車メンテナンス・修理サービスに風穴 を開け、急成長している企業がある。中国の出張メンテナ ンスサービスを提供する「カラ丁 (カラディン)」(Kalading Automobile Service Technology Co.Ltd) は 2 か月ごとに 利用者数を倍増させ、顧客向け事業を開始した去 年 7 月か らたった 9 カ月で 10 万人弱の利用者を獲得。4 月には中国 A 株で 1000 万ドル (約 12 億 円) の資金を調達し、投資 家からも熱い視線を集めている。

同社の急成長の背景には中国の悪質極まる自動車メンテナ ンス・修理市場の実態があった。日本ではオイルやフィルター

の交換や安全検査はガソリンスタンド、ディーラー、車検業 者などに任せれば済むことで、殊更取り上げるまでもないが、 中国では状況が違った。

中国のガソリンスタンドは国営大手が独占し、既に暴利を 得て事足りていることもあり、メンテナンスサービスは提供 していない。ディーラーは勿論メンテナンスをするものの、 値段の割にはサービスもまちまちで、更に郊外という立地条 件の悪さも手伝い身近な存在ではなかった。

一方、街中の零細修理業者のサービスは悪名高く、不透明 な修理費用の請求やニセの「ブランド部品」の使用は当たり

前という状況。そのため、中国の自動車オーナーにとって、自動車のメンテナンスや修理は多大な時間と神経を浪費する苦痛の種だった。

カラディンはここに着目し、移動端末の中国版ラインの「微信」(We Chat) や電話から 365 日、24 時間予約を受け付けて、顧客の希望する場所まで出張し、その場で 45 分以内に標準化された高品質のメンテナンスを提供するサービスを開始した。2012 年の会社設立当初は企業向けサービスを行っていたが、昨年 7 月からモバイル端末と連動した個人向けサービスに転換し、これが大ヒットとなった。

カラディンは、従来の悪質修理への消費者の不満や不安をひとつひとつ解消した。料金体系は出張メンテ一回につき 150 元(約 2900 円)に統一し、これ以外にかかる費用は交換部品の実費のみと明確化した。部品価格はネット量販店の「京東」の価格を基準に低価格に設定し、万が一セ部品だった場合は価格の 100 倍を弁償するという罰則と共に、純正のブランド品のみを提供することを保証した。また、オープンに顧客による部品の持ち込みにも対応している。

因みに同社のサービスは、オイル交換などのメンテナンスに限られるが、車種に関しては中国の街を走る約 1700 種以上の車種に対応している。同社はひとつずつ調べ上げ独自のデータベースを作り上げたという。

更に、かつて良く見られたような、壊れていない部分の部品を勝手に交換する悪質な「修理」が心配な消費者のために、同社では 45 分の修理の全工程をビデオ撮影し、3 カ月保存するという措置をとっている。

このように、同社は中国ならではの悪質なメンテナンスサービスを消費者の視点からひとつずつ克服した。そのひとつひとつがカラディンの特色となり、多くの消費者の支持を得ている。

次に彼らの急成長をプッシュしている他のマクロ要因を見てみよう。同国の急速なモータリゼーションによる自動車関連サービス市場の誕生がその一つだ。今や中国の民間自動車台数は 1 億 5400 万台に達し、米国に次いで 2 位の規模となった。自家用車は 1 億 400 万台で 2000 年時の 35 倍へと爆発的に増加したという(ロイター 2014 年 12 月)。また、北京市の車両保有台数は 2003 年の 200 万台から 2009 年には 400 万台に倍増し、2010 年には東京の 451 万台を抜き、現在は 500 万台で推移している。過去 10 年で如何に突如、巨大な自動車市場が現れたかがお分かりいただけるだろう。それに付帯したサービスはほぼ空白だったということだ。

更に、普及率世界一を誇るこの国の巨大なモバイル人口の

存在がある。中国のスマホなどの移動端末の利用者数は 5 億 5700 万人に上る(2014 年末 CNNIC 統計)。カラディンの予約はほとんどがスマホ経由だ。同社は中国版ラインの「微信」で顧客に部品交換時期や各種サービスのお知らせを出したり、技師への相談を受け付けたりすることでモバイル時代の若い顧客を取り込んでいる。

究極のところで同社が見据えているのは、日常の緊密なコミュニケーションを通じた顧客との関係作りと、顧客のビッグデータの確保だ。顧客との間にしっかりとした信頼関係ができ、顧客数が数百万、数千万規模に達した暁には、自動車関係の他のサービスを提供するプラットフォームになるというのが同社のビジョンだ。ある意味で、現在のメンテサービスはそのための道具でもある。

モバイル時代の消費者の視点で中国の「トンデモ」な現状に着目し、それをチャンスにしたカラディン。模倣王国中国だけあって、既に同社を模倣した出張自動車メンテサービス企業が次々に立ち上がっているが、同社の季成会長は「競争があるというのは我々の方向が正しく、社会にとって価値があることをしている証」と余裕だ。

急速に巨大化する市場を背景に、中国のマイナスを合理的にビジネスチャンスに転換する視点には、学ぶところがありそうだ。

「PUNTA」(2015 年 4 月 30 日掲載)



消費者にとって悩みの種だった修理・メンテナンスプロセスの徹底した透明化と標準化を図り消費者の絶大な支持を得たカラディン。写真は出張先で修理過程の撮影準備をする技師。45 分間の修理の全プロセスを記録した動画は同社で 3 カ月保存される。



カラディン社のロゴを持つ技師たち。中国の他の IT 企業同様に同社の主力戦力は 20 代、30 代、会長も 40 代と若い企業だ。

【さいとう・じゅんこ】米国で修士号取得後北京在住。在北京のジャイカや日本大使館を経て、中国社会全般に関し調査研究をもとに執筆。朝日 RONZA、読売新聞、時事速報などに寄稿。共著編に『在中国日本人 108 人のそれでも私たちが中国に住む理由』など。



Global Press Annual Clippings 2015

「尽くされて当然」都会の強き女性たち 中国発

伊勢本 ゆかり (在中国・蘇州)

上海や北京などの大都市を歩いていてあちこちで目につくのが、女性用バッグを持った若い男の子の姿だ。そして、近くには同じ年頃の女の子がいる。実はこれが、現代中国の若者たちにとって「流行りのデートスタイル、なのだ。彼女はアイスクリームやおでんなどの軽食を手に悠々と先を歩き、カラフルなバッグを抱えた彼氏のことなど、気にかける様子はまったくない。

一人っ子政策の時代を経た中国。地方や農村部には2人以上のきょうだいも少なくないが、都市部に限って言うと、一人っ子の若者が圧倒的多数を占める。彼らは家族全員の愛情を一身に受け、あれこれ身の回りの世話をされながら育ってきた。

そんな女子たちにとって、恋人がバッグを持つことはごく当たり前のこと。さらに、靴紐がほどければ彼氏が路上に跪いて直し、歩き疲れたら歩行者天国の一角で懸命に足を揉みほぐしてくれる。また、割り勘など論外で、デート費用はすべて男性が負担。これは何も富裕層に限った話ではない。庶民的な学生や地方出身者なども、身の丈に合わせた食事や買

い物を楽しんでおり、やはり彼氏がバッグを持ち、お金を出す。

なぜ、同じ一人っ子でも男性ばかりが尽くすかということ、将来、結婚した相手に自分の両親と同居して面倒を見てもらいたいと考えているためだ。また、「同じ一人っ子なら男のほうが良い」とされた時期もあり、10～20代の人口は男性がはるかに多い。つまり、男性は将来の伴侶をしっかりと捕まえておくために必死なのである。

男性主流の社会だと思われがちな中国だが、仕事の内容や給料の水準などは平等で、女性の社会進出がかなり進んでいると言えるだろう。また、物価が上昇し続ける都市部においては、共働きの夫婦がほとんど。女性は結婚しても退職せず、妊娠・出産した場合も、数ヶ月の産休を取得した後は、子どもを両親に預けて働くのが一般的だ。にも関わらず、結婚の条件として男性側が車や新居、支度金を用意することだけは依然として残っており、その負担は並大抵のものではない。パワフルな女性たちのそばで、男性は結婚後も頭の上からない日々が続くのである。

『婦人公論』(2015年6月9日号掲載)

【いせもと・ゆかり】東京都生まれ。武蔵大学人文学部欧米文化学科卒業。ヨルダンに2年半、アラブ首長国連邦に10年仕事で滞在の後上海経由、現在は蘇州在住のフリーランスライター。日本の各種媒体にコラムを専門に寄稿。



Global Press Annual Clippings 2015

B.B. キングの死と、消えゆくブルーズ

岩下 慶一 (在米国)

2015年5月14日、キング・オブ・ザ・ブルーズ、B.B. キングの訃報が世界中を駆け巡った。

ミック・ジャガー、エリック・クラプトン、果てはオバマ大統領までが追悼のコメントを発表し、世界的なブルーズ・ギタリスト・シンガーの死を悼んだ。かつてB.B.をホワイトハウスに招き、その演奏を楽しんだオバマ大統領は「アメリカは伝説を失った」と嘆息したが、これは単なる紋切り型の賛辞ではない。B.B.の死は、音楽界の重鎮が世を去ったというだけでなく、人種隔離政策がまかり通っていた時代から、50、60年代の公民権運動、ベトナム戦争など、米国社会の転換期を駆け抜けたブルーズという音楽に、一つのピ

リオドが打たれたという解釈もできるのだ。

米国でのブルーズの位置づけは、なかなか数奇なものだ。元々はデルタ地帯と呼ばれる米国南部のミシシッピ川流域で、人種差別と貧困に喘ぐ黒人たちがせめてもの慰みに始めた音楽で、今や神格化されたロバート・ジョンソンなどが始祖とされる。その後、ブルーズのレコードが盛んに作られた1920年代に最初の黄金期を迎える。ちなみにB.B.が誕生したのは1925年のミシシッピだから、地理的にも時期的にもブルーズ隆盛の真っただ中に生を受けたことになる。

1920年代から50年代にかけて、南部の人種差別を嫌い、より良い職を求めた黒人たちの北部大都市への移動が始ま

り、ブルーズもそれとともに北上する。エレキギターやドラムを入れた現在のブルーズの原型が出来上がったのは、多くの黒人たちが移り住んだシカゴだった。B.B. もテネシー州メンフィスを拠点にブルーズミュージシャンとして頭角を顕して行く。

当時、ブルーズはあくまで黒人のための音楽であり、白人たちに顧みられることはなかった。人種差別が空気のように社会に浸透し、誰もそれに疑問を抱かなかった時代だ。南部では、悪名高いジム・クロウ法により、黒人と白人のトイレが分けられ、食事をする場所も別々だった。ブルーズは黒人だけのもので、白人が聞く音楽ではなかったのだ。

そうした状況を変化させたのは、大西洋の向こうのイギリスの若者だった。第二次大戦後に生まれた新世代のイギリス人たちは、米国の音楽を競うように聞いた。黒人が少ないイギリスでは人種偏見の意識も薄く、若者たちは黒人音楽を抵抗なく受け入れ、自分たちのサウンドに取り入れていった。ギターを始めたばかりのエリック・クラプトンはロバート・ジョンソンやB.B. のギターをコピーし、ポール・マッカートニーは黒人歌手リトル・リチャードの歌い方を真似するのに躍起になっていた。ミック・ジャガーやキース・リチャーズは、尊敬する黒人ミュージシャン、マディー・ウォーターズのアルバムからその名を取ったローリング・ストーンズというバンドで活動を開始する。

1960年代、ビートルズを皮切りに、こうしたイギリスの若者が米国のミュージックシーンを席卷する。いわゆるブリティッシュ・インベイジョン（イギリス勢の攻勢）である。黒人音楽の影響を色濃く受けた彼らは、その斬新なサウンドで米国の大衆の心をつかむ。彼らの音楽のルーツが黒人音楽であると知った米国人は、ここで初めて見下していた黒人たちの音楽の中にある魂に気づく。B.B. はじめ多くの黒人ミュージシャンは米国でも認められ、スポットライトを浴びていく。やがてそれは60年代の公民権運動、ベトナム反戦運動の高まりとともにロックという強力なカウンターカルチャーのうねりとなって世界中に波及し、ブルーズは世界中に伝えられていった。

B.B. は60年代ジョージア州オーガスタで行われたロックフェスティバルに参加した時、新しい時代が来たことを思い知らされる。彼の奏でるギターは会場に詰めかけた白人の若者から大喝采を浴びる。会場の近くの川では、黒人と白人の若者が仲良く泳いでいた。ナイトクラブで演奏した後、白人と同じテーブルにつけず、黒人専用のエリアで食事をするのが当たり前だったB.B. にとって、それは信じられない光景だった。公民権運動の成功と共に、ブルーズも市民権を獲得

したのだ。

60年代後半から70年代にかけて、B.B. の名声は高まるばかりだった。ローリング・ストーンズから絶賛され、ジョン・レノンから最大級の賛辞を贈られ、エリック・クラプトンからは師と仰がれた。奴隷制度の名残りが根強く残る南部で活動を始め、トイレも水飲み場も黒人用のものを利用し、白人の影を踏まぬように生きてきたB.B. にとって、うれしさよりも戸惑いの方が大きかったに違いない。賛美の声はさらにエスカレートする。グラミー賞特別功労賞、生涯業績賞の受賞、エール大学による名誉音楽博士号の授与、ホワイトハウスへの招待…。しかし、社会の最下層から雲を突き抜けた高みに連れ去られるような経験も、この南部のつましいキリスト教徒の本質を変えることはなかった。「自分自身をブルーズギターマンと呼んだことはないよ。私より素晴らしい演奏をする人はたくさんいるからね」

B.B. の訃報に接したエリック・クラプトンは、直後に発表した動画でこう発言している。「この音楽（ブルーズ）はもはやほとんど過去のものになりつつあります。B.B. のように純粋な形でそれを演奏できる人がもうあまりいないからです」ブルーズが斜陽化しているという意味ではもちろんない。それは世界中のミュージシャンに受け継がれ、その影響は今やポップの中にさえ聞き取れる。しかし、貧困、差別による悲しみという本当のルーツを持ったブルーズを生で聴く機会は急速に失われている。B.B. 亡き後、存命の大物ブルーズミュージシャンは、あと数名を数えるのみだ。

クラプトンが言うように、本物のブルーズはもはや音源の中にしか存在しないのかもしれない。だが、米国社会の転換期を彩ったブルーズマンB.B. は、もう一人の偉大なキング、マーティン・ルーサー・キングと共に米国史の1ページに永遠に記憶されるだろう。差別と貧困から生まれ、そこから這い上がり、今や米国文化の一部となったブルーズという偉大な音楽の象徴として。

朝日新聞社「WEB RONZA」(2015年5月23日掲載記事に加筆)



2012年11月に撮影された往年のB.B. キング氏 (©Justin Block)

【いわした・けいいち】在米ジャーナリスト・翻訳者。ロサンゼルスで業界紙記者を経て、2000年よりフリーランスとなり、新聞、雑誌等に執筆している。翻訳書に「ハリポッター前夜祭」「マクドナルド7つの成功原則」「日本・米国・中国団塊の世代(米国部分)」などがある。オルタナマガジン副編集長。



宗教の違いを超えた音楽の可能性 ベラ・アンサンブル『Music for the one God』の平和への希望

中 東 生 (在スイス)

偶然なのか、必然なのか。世界中を震撼させたフランス連続テロ事件直後の2015年1月18日、ミュンヘンのフィルハーモニー・ガスタイクホールで、ユダヤ教とキリスト教、そしてイスラム教の3つの宗教曲を融合させた、ベラ・アンサンブルのプログラム『Music for the one God』が披露された。

この企画は2012年にアナウンスされている。当時、既に危機感を感じていたベラ・アンサンブルが「現在は異なる宗教として対立感が増すばかりのキリスト教、ユダヤ教、イスラム教は実は同じ根源を持つということを再認識して、お互いを尊重し合わなければならない」と、音楽的共存を表現するために創り上げた。

イスタンブール、ザールブリュッケン、ミュンヘンと回って得た成功を受けて、より大規模に展開させた新しい『Music for the one God』を発表する時に、それがここまで必要な世の中になっているとは、彼らにとっても残念な驚きだったという。

ベラ・アンサンブルはトルコ出身のマホメッド・イエシルケイが結成したグループで、著名な音楽祭でも認められる高い音楽性を持つ。彼らが目をつけたのは、キリスト教を背景に持つバロック音楽も、ユダヤ教の宗教音楽も、イスラム音楽と共通の、オスマン帝国にルーツを持つという点である。

この3種の音楽を上手く組み合わせたプログラムは世界で唯一のものだという。「同化させたいのではなく、同じ高さの目線で対峙させたいのです」と1959年生まれのイエシルケイ氏は語る。彼らは2012年にドイツを代表する音楽賞、エコー賞の『境界線を越えたクラシック』賞を受賞している。

ガスタイクホールでの大コンサートに先駆け、1月16日にはまずミュンヘンの百貨店Beck最上階にある音楽フロアでのミニコンサートが企画された。

セキュリティの人員を各所に配置するという重々しさだったが、聴衆は民族楽器などに興味を示しながら、宗教の壁を意識せずに、純粋に音楽の響きを楽しんでいた。CD購入者へのサイン会も開かれ、そこで交わされていた会話からも、人々の関心の高さが分かった。

翌日17日には、18日のコンサートチケットを手に入れられなかった人たちのために、特別コンサートが企画され

るという勢いであった。そうして迎えた18日のコンサートは、総勢160人ほどの出演者がエキサイティングなステージを見せた。

コンサートのオープニングには司会者が登場し、次のようなコメントを述べて満場の拍手に支持された。

「このコンサートは残念ながら、とてもタイムリーなものとなってしまいました。テロリストが簡単に人命を奪うこんな時代には、何らかの指針を示さなければなりません。このコンサートは大切なメッセージを伝えます。タイトルのoneは、私達の社会が一つになるという意味も含んでいます。私達の神が何という名前と呼ばれていようと、どんな祝日を祝おうと、何を信じ

ていようと、一つになれる社会。他宗教を許容するのではなく、ただ敬意を払うことが必要なのです」

まずコーラン詠唱でコンサートが始まり、そこに13世紀のキリスト教音楽が自然に響き始める。それは不思議なほど違和感がない。イスラムの民族楽器とクラシック音楽の楽器が混じって響く音色は、まさしく奇跡的だ。

その後にはフラメンコを思わせる手つきで踊りながら歌うユダヤ音楽が続く。次の曲では、見た目は縦笛なのだが、音色はサクソフンのようなネイの伴奏で、アラムの教会音楽が歌われる。続いてイタリア人ソプラノが、『もののけ姫』の主題歌を思い出させるような、バルセロナの修道院所蔵の曲を、尺八をハイカラにしたような枯れた音色の笛、メイとともに歌って応える。

そこへ僧侶のような出で立ちの男性が5人登場し、おもむろに黒いマントを脱ぎ、白い衣装で踊り始める。それはロシアのコザックダンスのようでもあり、衣装の裾が広がる様子は、バレエ『くるみ割り人形』の花のワルツのようでもある。カウンターテナーのフィリップ・ミネッチャが歌うヴィヴァルディの「ラクリモーザ」で、また西洋へ引き戻された頃には、聴き手の方にも境界線を越える意識がなくなり、彼らの世界へどっぷりはまったままコンサートが終了した。

笛ともども特筆すべきなのは、まずリーダーのイエシルケイ氏が担当するウズ(木製の中世リュート)だろう。西洋リュートの祖先だというこの楽器は、ギターよりもふわっと広がる音色が高原を想像させ、人類の起源にまで遡る懐かしさだ。

カーヌンは、彼らによると「日本の琴と同族」という楽器だが、こちらは約 80 本の弦を持つ、10 世紀から伝わる楽器で、当初は羊の腸から作られた弦だったそうだ。現在はもちろんナイロン製である。彼らが琴と比べる通り、日本人にも馴染みやすい音色だ。そして驚くほど人間の肉声に近いマンドリンのような姿の楽器がケメンチャだ。これらの楽器は、宗教や人種を越えた人類の遺産のように響く。

あまりにも自然に紡ぎ合う 3 つの宗教音楽は、そのうちのどの宗教にも属さない者に一種の嫉妬すら抱かせるほどの仲睦まじさ。そこで思わず「なぜ仏教が出て来ないのか」という質問を投げかけてみた。「一緒に文化を発展させたことがないから」と簡単に答えられてしまったが、それは仏教が排他的でなく、意識されずに様々な文化と既に混ざり合っている証拠なのかもしれない。

最後に「本当にこのような企画を通して、世界に平和をもたらす事ができると信じているのですか?」と思い切って聞いてみた。イエシルケイ氏は確信を持って答えた。「信じるものにも、共存できていた時代があるのだから、その記憶を呼び起こさせるだけでいい。イスラム音楽からヨーロッパのバロック音楽も発展していったという事実を通して、過去を思い出し、一つになって欲しい」。

今後、この豪華版『MusicfortheoneGod』はイスタンブール、ケルン、サラエボ、ウィーンへの招聘が打診されている。

【なか・しのぶ】スイス在住。イタリア、スイスに関する環境政策記事の専門誌への投稿を経て、現在は音楽専門誌やコンサートプログラムに執筆するかたわら、日瑞文化交流の企画を手がける。

このような企画が世界を包み、平和を創ってくれることを願って、人々はこれだけ集まって来るのであろう。

日本も人質事件で悲しい被害者を出してしまったことについて、彼らはこう語る。「日本人捕虜の事件は、宗教が悪用された恐ろしい事件です。私達の宗教において殺人を説く事はありません。それをする者はイスラム教徒でないだけではなく、人間ですらありません。これは日本にとっての悲劇ですが、世界の残りの国にとっても同じく悲劇だと思います」

有史以来、世界をどんどん巻き込んでいった宗教間の争いに、私たち日本人は今後どのように向き合っていけばいいのか。その葛藤の中で生まれた『Music for the one God』は言葉で表せない答えを提示しているように思える。

朝日新聞社「WEB RONZA」(2015年2月21日掲載)



民族楽器の縦笛ネイを吹くヴォルカン・イルマツと、ソリストのサラ・エゴ



Global Press Annual Clippings 2015

なぜ英国では EU 離脱が問題になっているのか ー スコットランド 独立問題と AIIB 参加の理由

今井 佐緒里 (在フランス)

英国の国政選挙が 2015 年 9 月 7 日に行なわれた。予想に反して、保守党が単独過半数を獲得した。

キャメロン首相は「もし保守党が次に政権をとった場合、EU と再交渉し新条件で妥結したら、EU 離脱か否かを問う国民投票をおこなう」と 2013 年に公約していた。EU 離脱 = Brexit (British exit) が一気に現実味を帯びて、欧州では重大ニュースの一つになっている。なぜ英国では、EU に加盟していることがそれほど問題になっているのだろうか。背後には「連合王国」が解体するかもしれないという危機感が潜んでいる。スコットランド独立問題や英国のアジアインフラ投資銀行 (AIIB) 参加の「なぜ」を解くカギが、ここにある。

< EU 加盟国にそっぽを向かれた英国 >

いま、英国は EU で孤立している。欧州で孤立があらわになって恥をかけた出来事が、2014 年 6 月に起きた。この事件は、英国と EU の問題を考える上で、とても重要だ。

それは、EU を束ねる立場の欧州委員会委員長を選ぶときに起きた。バローゾの次として、ジャン＝クロード・ユンケルがほぼ確定していた。彼はルクセンブルク首相を 18 年つとめた人物だ。あとは加盟国首脳 28 人が承認しさえすればいいという時に、英国政府は彼の就任に猛反対した。「彼は古すぎる」「改革にふさわしくない人物だ」と。すさまじかったのはタブロイド紙だ。いわく「狂った EU。ユンケルは欧

州で最も危険な男」「家族がナチスの賛同者だった」。ユンケル氏にパラッチをつけ、彼の私生活をかきまわった。彼は「隣人に迷惑をかけるのが一番煩わしい」とキレていた。さらに普通の新聞まで「私は膝について英国に請うことなどしないとユンケルは言った」などと大きく書くという具合。

キャメロン首相は、EU内で仲間をつくらうとした。湖上で仲良くボートに座る4カ国首脳。ラフな格好でカメラ目線にっこり笑うのは、キャメロン英首相、メルケル独首相、オランダとスウェーデンの首相。英国政府は、これを「反ユンケルサミット」としたかったのだが。

メルケル首相は、ユンケル支持を一貫して変えなかった。EU離脱をちらつかせる英国に「脅しは欧州の精神の真髄ではない。われわれが通常、物事を進めるではない」とたしなめた。オランダは「中立」と言い出した。

そもそも、今回から、委員長の選出は改革されたものとなっていたのだ。以前のように、首脳たちが密室で決める方法ではなくなった。選挙の前に、欧州議会の各会派（党のようなもの）がそれぞれ委員長の候補を立てる。EU市民は5億人強。彼らを代表する欧州議会の選挙で、一番に勝った会派の委員長候補が委員長になるという民主的な方法になった。選挙では、ユンケルを擁した中道右派の会派、欧州人民党グループが勝利。選挙に勝ったユンケルの就任は決まったも同然だった。

それでも英国は騒ぎ立てた。そして結局、ほぼ全加盟国にそっぽを向かれた。最後に英国についてくれたのは、親ロシアと言われるハンガリーだけ。26対2でユンケル氏が就任、英国の孤立があらわとなった事件だった。

なぜこれほどに、英国政府はユンケル氏の就任に反対したのか。

<「独立してEU加盟国になればいい」という考え>

ユンケル委員長は、「欧州連邦主義者」と言われる。彼は欧州統合の信念に揺らぎがない。冷戦が終了し欧州では、西欧だけではなく東欧も加盟、経済だけではなく政治も含めた共同体の創設を決めた。90年代初頭の欧州連合の創設議論に、30代後半という若きユンケルはルクセンブルク財務大臣として携わっていた。

彼は英語、フランス語、ドイツ語が達者である。フランス・ストラスブールの欧州議会で、ユンケルがフランス語で演説していたのを見た事がある。議会では全言語に通訳がつくが、彼は英国に耳が痛いセリフを、さっと英語に切り替えて再度述べた。英国選出の議員は苦笑いをしていたが、こんなことは日常茶飯事である。彼は血統書付きの大物だ。だから英国は、彼を恐れたのだ。

確かにEUの深化は、国家主権に抵触してくる問題ではある。しかし、他の27加盟国には、ここまでの先鋭的な反応はない。極右が台頭している国は他にもあるが、英国に同調

していない。いくら英国人はヨーロッパ人意識が薄いとはいえ、なぜ英国でのみこれほど先鋭化したのか。

目下一番重要な問題は、スコットランドである。英国はイングランド・スコットランド・ウェールズ・北アイルランドの4つの地域からなる「連合」王国である。一つの国にまとまってきたのは、大陸ではなくて島国であること、各地域が「たとえ独立しても小国では立ち行かない」という意識があったこと、束ねる存在として王室が存在することなどがある。

しかし、EUはどんどん大きな枠組みとして深化してきた。EUが築いた大きな平和がある。そして欧州が一つになってきたという漠然とした雰囲気が出て来た。そんな中、「独立してEU加盟国になればいい」という意識が登場してきた。他にもスペインのカタルーニャ、ベルギーのフランドル、しいては少数だがベネチアまで、独立派の動きが出て来ているのは、このためだ。スコットランド独立派は、エリザベス女王を国家元首にすることには同意していた。しかし、独立国としてEU加盟国であり続けることを望んでいた。この考えを認めたら「連合」王国は解体してしまう。

「われわれは、なんとかやっていくには、弱すぎて貧しすぎるというのだから！」とあるスコットランド人は言った。「国の大きさが問題というのなら、ベルギーやギリシャだってなんとかやっている。どうしてスコットランドはダメだというんだ?」。この弁が、独立派の意見を代表している。

2014年9月の独立投票の前、スコットランド民族党のサムンド党首（当時）は言った。「ユンケルは、小さな国でもEUに影響を与えることができるという生きた証拠である」「スコットランドは、EUの一部になるだろうし、交渉ができるだろう。EUの国々は、スコットランドの民主主義と、人々の決断を認めるだろう」と。

<迷走するフィナンシャルタイムズの論調>

どんなに英国が、EUの権限強化と、国の解体を恐れているか。

フィナンシャル・タイムズの論説を2つ見てみよう。

まずは社説から。「EU加盟28カ国の首脳は、2つの理由からユンケル氏の任命を認めないよう結束すべきだ。第1に、ユンケル氏の立候補は欧州議会による露骨な権限拡大に等しい。主要候補の1人である同氏を任命したのは、欧州委員長を選ぶという議会の主張を補強するためだけの策略で、EUの条約に根拠はない」「第2に、ユンケル氏の任命は欧州のリーダーが選挙での反EUの声を無視した象徴になる。同氏はEUの奥の院では熟練した交渉人かもしれないが、保守派の連邦主義者であり、反EUの有権者がEUに対して抱く不信を全て体現している」。

実に奇妙な論である。議会が権限を拡大するのは策略なのか。多数派が反EUという少数派を無視するのはいけないこ

となのか。議会、そして多数派が力をもつのは、民主主義の基本ではないか。英国を代表するはずの新聞が、一体どうしてしまったのだろう。

もう一つ、同紙の記事を紹介しよう。「ユンケル氏の委員長就任を阻止しなければならない最も重要な理由は、欧州の民主主義を守ることにある」「欧州の民主主義を巡る2つのビジョンの対立がある。1つは、欧州議会の権力を強めることがEUをさらに民主的にする唯一の道だとするビジョンであり、特にドイツでよく見られる。もう1つは――筆者はこちらに与するが――欧州議会の権力強化は実際には民主主義に深刻なダメージをもたらすというビジョンである」「欧州全体を1つの民主主義政体にするという考え方は良策ではない。政治を行う単位としては大きすぎるため、有権者は理解できなくなってしまうのだ」。

この論理は、英国政府にとって地雷となりうる。「欧州議会が大きすぎる」というのなら、スコットランド独立派は「英国議会は大きすぎる」と言えるからだ。

2つの論説は、要するに「欧州議会の権限が増すのは嫌だ。権限が増えて欧州が一つの政体になるのに反対だ」と言いたいのだ。

まるで、ユンケル氏が就任すれば、欧州は「ヨーロッパ合『州』国」になり、1つの議会が機能すると言わんばかりである。いくらなんでも先走りすぎの感があった。

しかし、英国解体の不安は現実のものになってしまうかもしれない。

半年前に行なわれたスコットランドの独立投票では、賛成44.7%、反対55.3%で、否決された。しかし団結の風潮は増しに増し、先日の国政選挙では、スコットランド民族党は大躍進をとげた。同地の59議席中40をもっていた労働党はたった1議席という大敗を喫した。そのかわり民族党が、6議席から56議席に票をのぼす、歴史的な大勝利となった。民族党党首のスタージョン女史は「英国政府がEU離脱を問う国民投票を行なうなら、拒否権を発動する」と選挙前から明言。「再び独立投票を行なう」とまで言っていたのだ。一体どうなっていくのだろう。

<シティの不安とAIIB参加>

これからは、「EU離脱は、英国経済にとって損か得か」という議論が活発になるだろう。現在、英国からの輸出の約50%が対EUであるという数字もある。EUを離脱したら関税が高くなり、損害をこうむるのは間違いない。ロンドン

は、世界のEU貿易の窓口としての地位を失ってしまうだろう。シティにずっと存在し続けたこの不安は、英国が中国のAIIBに参加した理由の一つに違いない。

英国のシンクタンク、オープンヨーロッパは、いち早くEUを離脱した場合の経済予想を発表した。この親EU組織は、英国が被る損害に警鐘を鳴らしている。しかし、離脱の長所も少しだけ述べている。EUの規制がなくなれば「製造業者は中国との貿易で利益を受ける」と推定したのだ。このレポートを紹介したフィナンシャル・タイムズは「英国は、潜在的に特に重要になりつつある、アメリカやアジアの市場と、金融サービスに焦点を大きな焦点をおいた貿易協定を結べるかもしれない」と記事を結んだ。3日後の12日、オズボーン財務相はAIIBの参加を検討していると発表、世界で驚きをもって受け止められた。この記事は、AIIBの参加を示唆していたのだと思う。政府は、EU離脱やスコットランド独立という最悪のシナリオを想定しつつ、国が衰退しないような国家戦略を練っていたに違いない。

EUの政治問題は、直撃ではないにしろ、日本をとりまく国際情勢に必ず影響を及ぼす。そして、現実を知った英国市民は、残留を選択する可能性は高いと思う。そのとき初めて日本人は、EUの重要性に気づくのかもしれない。

朝日新聞社「WEBRONZA」(2015年5月28日掲載)



独立住民投票の前日、グラスゴーにて。スコットランドの旗を掲げる二人。(2014年9月筆者撮影)

【いまい・さおり】パリ在住。フランス、EUを中心としたヨーロッパ、地中海世界の社会や文化などを中心に執筆活動を行っている。編著に「ニッポンの評判 世界17カ国最新レポート」(新潮社)、欧州の章編著に「世界が感嘆する日本人」、海外メディアが報じた大震災後のニッポン」(宝島社)など。連載「マリアヌ時評」(フランス・ニュースダイジェスト) 早稲田大学第一文学部卒業。出版社勤務の後、渡仏。現在、ソルボンヌ大学(La Sorbonne Nouvelle)大学院ヨーロッパ学院在籍。日本EU学会会員。



ドイツ最底賃金法導入で得をした人、損をした人

シュピッツナーゲル 典子 (在ドイツ)



最低賃金法導入で、果たして誰が恩恵を受けたのだろうか

2015年1月より最低賃金1時間8.50ユーロ(約1200円)がドイツ国内全労働者と全産業で導入された。貧富の差を改善すべく開始された最低賃金法だが、ここに来て数々の問題が浮上している。(特記以外の画像は筆者撮影)

得をした人・370万人

「得をした人、損をした人」というと不評を買いそうだが、まずは最低賃金法導入で誰が恩恵を受けたのだろうか。昨年、連邦労働者社会省(BMAS)は同法導入により、370万人の労働者がその恩恵を受けると試算した。だが、現時点では予想どおりすべての労働者が恩恵を受けたのかどうか報告されていない。

ドイツ連邦統計局は、5月の消費者物価指数が前年同月比0.7%上昇したと発表した。これで4カ月連続のプラスとなった。(6月1日付け)

ガブリエル経済・エネルギー相(SPD)は、昨年のインタビューで「最低賃金法導入により個人消費が活性化する」と言及した。現段階では同氏の予想が的中したかのように見える。

だが、順調な滑り出しをしたとは言い切れない。最低賃金導入法に対し、得をした人の声はあまり聞かれず、損をした人の不満ばかりが噴出しているのだ。

損をした人・約24万人

この5月中旬、ヴェルト紙は約24万人のミニジョブ労働者が最低賃金導入で職を失ったと報告した。(ミニジョブの説明は後ほど)

最低賃金導入による失職者の全国平均は3.5%。一方、ザクセン・アンハルト州約8%、チューリンゲン州約7%と、東部ドイツの労働者に失職者率が高い。(今年1月から3月までの統計)

なかでも、ホテル、レストラン業界、美容院、農作物に携わる労働者の失職が深刻だ。雇用者の多くは1時間8.50ユー

ロを支払うためにはやむ終えないと言う。

そればかりでなく、商品やサービス料の値上げも続いている。例えば、ドイツ西南部バーデン・ヴュルテンベルク州では、最低賃金導入によりタクシー料金を1キロ20セント値上げした。昨年、労働者を解雇したタクシー会社もあるという。美容院を経営する女性Bさんは、10%の値上げを強いられたと語る。

「値上げ後、顧客の足が遠のいてしまった。これまで4週間に一度美容院を訪れた客が、6週間にというようなサイクルになった。生き残りには値上げは必要だった。客の気持ちも理解できるが複雑な心境」と不服を訴える。

レストラン業界にしてみても、ミニジョブ労働者を解雇したうえ、値上げも続いた。

「最低賃金導入で職を失った犠牲者は、生活費の足しにと働く高齢者や生活費を稼ぐ学生が多い」という専門家の声も上がっているが、職業安定所に言わせると、「最低賃金法導入による悪影響はない。失業者は相変わらず6.5%前後と低い」とのことだ。

ただし、これから秋にかけて農作物収穫従事者が急増するため、労働市場に大きな変化が見られるだろうといい、失業者の増加を暗示する。

・・・ミニジョブはシュレーダー首相の元、導入された。2014年9月現在およそ5百万人がミニジョブとして就業している。ひと月450ユーロ以下の報酬を得ることで、労働者は所得税と社会保険料が免除される。・・・ 出典:ウィキペディア

損をした人その2・雇用者の抱える問題、そしてしわ寄せは消費者にも

雇用者側から見た問題は、最低賃金導入により、膨大な書類整理が増えたことだ。例えば、農作物に携わる季節労働者やミニジョブ労働者を抱える雇用者。今年から毎日何時間仕事をしたのかを記録する義務が発生した。その記録は2年間保存が義務付けされた。

さらに、これまではひとシーズンくらいという契約をしていた季節労働者にも最低賃金法が適応される。これら労働者に対し、雇用者は従来のように収穫最盛期に仕事が終わるまで手伝ってもらうという訳にはいかなかった。経費がかかりすぎてしまうからだ。

また農作物栽培や収穫には家族の手助けも必須だ。しかし、

今年からは最低賃金法により、家族にも報酬を支払わねばならない羽目になった。妻や成人（18歳以上）の子供が家業を手伝った場合、一般労働者と同じく支払いが発生する。加えて、その時間管理や書類作成などの申請手続きが増え、雇用者のフラストレーションは高まるばかりだ。

雇用者のCさんは「最低賃金は労働現場に見合った法ではない」と嘆く。

今、ドイツは白アスパラガスの最盛期。白アスパラガスを求めて、消費者は行列待ちで買いに出かける。「白アスパラガスは季節限定商品（6月24日まで販売）」という言葉に魅せられて、節約家のドイツ人もこの時ばかりは財布のひもを緩める。

今年は天候が不順でアスパラガスの値が高くなっている。。。と思いきや、ここでも最低賃金導入のあおりを受け値上がり。昨年の最盛期、1キロ8ユーロだった1級品は今年10ユーロ。アスパラガス畑で作業する労働者を横目に見ながら、複雑な気持ちで帰路についた。

Yahoo!JAPAN ニュース（2015年6月4日掲載）



農作物収穫には季節労働者が必須（c）H.D.Volz/pixelio.de



今年は例年に比べ高めの白アスパラガスだが、諦めることはできない味覚

【しゅびつなげる・のりこ】ドイツのビジネスや社会・医療・教育・書籍業界・文化事情を新聞や雑誌業界などに寄稿。JapanBusinessPress, 日経BP、朝日WEBRONZA、オルタナ、薬局経営者専門誌、日本通運欧州版旅情報ハートライナー倶楽部など。「世界が感嘆する日本人～海外メディアが報じた大震災後のニッポン（宝島社新書・ドイツ原稿担当）日本のTV番組制作リサーチヤコーディネートも数多く手がける。見本市通訳や政府機関市場調査コーディネーターとしても活動。